



Rev. G.G. NAKAYAMA  
P. O. Box 461  
COALDALE,  
ALBERTA,  
CANADA  
カナダ聖公会日系人部

### 教説 現実の基督

司祭 中山 吾一

「視よ、我は世の終りまで常に汝らと偕に在るなり」(太六・三)  
「弟子達出で、あまねく福音を宣伝へ、主も亦ともに働き、伴ふところの徴をもて御言を確うし給へり」(マルコ・六・三)

「一、現実の基督の信仰の根拠」  
基督が現実に生きて居給うとの信仰の根拠は、先ず二千年の歴史にそれをもとめねばなりません。今日まで、凡ての俗権。迷信。異端。物質万能。罪悪がキリストを葬らんとしましたが主は何時でも、墓を打破つて、世に勝ち給いました。

「二、現代人の良心は、主の現実の存在を証明致します。即ち此の科学万能の時代に於ても、人々の心の奥深くに、或る神秘的な「我」ならざる「我」以上の或

る生命のひそんで居る事を誰も否む事が出来ません。これこそ活ける基督の生命であつて、そ活ける基督の生命であつて、チャーレス・セルドンの「主の足跡」や、スタンレー・ジョンズの、「印度途上の基督」を讀んで見ても、同様に活けるキリストが、現代人の間に活きて働いて居られる事を感じさせられるのであります。

「三、現実の基督と我等」  
基督が現実に活きて居ると言ふ信仰は我らに勇気を与えます。「我正に世に勝てり」と言われた主は、我らにも力を与えて世に勝たしめ給うからであります。また此の信仰は我らに慰めを与えます。主が地上に居られた時に凡ゆる病人を癒し、罪人の罪を赦し、死人を甦らせ給うた其の同じ力を有ち給う主が今も尚活きて居られる。そうして信ずる者に同じ癒し、同じ赦しを与えて居て下さると思えば私共には無限の慰が心の中に起つて来ます。愛に富み給う主は今も生きて居給うのであります。「凡て勞する者、重荷を負ふ者我に來れ」と呼んで居て下さるのであります。現実の基督を信ずる者には、其の主と交り、語り教えられ、学び、慰められ力づけられる特権があります。キリストにふれて生活する者は其の生命をうけ、性格は変化し生活そのものさへ変つて来る特権があります。キリストの現実の存在か否かは、眞のクリスチャンであるか否かの分れ目でありま

彼がかつてキリスト教迫害の書物を出版した会社は後に、聖書会社と代つたと言ふ事でありました。目録「二千年の歴史」

「A」天地は過ぎゆかん、然れど我が言葉は過ぎ行く事なし。」(太二四の三五)と主は言明されましたが、世の如何なる力をもつてしても、キリストの真理に反抗する事は出来ず、又活ける基督を亡ぼす事は出来ないのであります。

「D」次に、聖書は最も雄弁に、主の活き給う事を物語つて居ります。「聖書は只一つの事を証明しようとして居る。それは、基督が生きて居給うと言ふ事である」と言つた人がありますが聖書を読めば読む程、キリストの活きて居給う事を感じます。或る人が釈迦を拝せんとすると「我を拝すな、我が法を拝せよ」と言われたと言ふ事であるが、キリストは「父を我に示せと言うが、我を見し者は父を見しなり」(ヨハネ一四・九)と、主が神と同格であり給う事従つて永遠の生命をもつて活きて居給う事を聖書を通して教えて居給うのであります。

「E」更に十二使徒ギバウロが主の存在を証明して居ります。主は御復活の後、十三回四弟子の前に現われて活き給う事を証明なさいました。ウエズトン「基督教は一ケの人格の事実の上になり立つて居る、人格とはキリスト、事実とは彼の復活であると言いました。主が活きて居給うからこそ、使徒達はあの迫害にたえて伝道し、パウロは大迫害者より、大伝道者に転向したのであります。」

## 證詞のページ

## 死刑囚の父

死刑囚の父と言つても、私の妻との間に生れた実子が死刑囚となつたと言つたのではありません、でも一人の死刑囚は私を「お父さん」と呼んでくれます。其の理由を説明する代りに私は彼の手紙を紹介しましょう。

「尊き主の御名を心から讚美致します。主に在る中山先生、主イエス・キリストの御名により見も知らぬ先生に御便り差上げ御交りする時を与えられ感謝です。

突然の事で、先生はさぞお驚きの事と思ひますが何卒御救し下さい。私は愚かな獄舎の一死刑囚です。私は昨年十二月でしたが何とかして外国に住む主に在る兄姉に私の救われた喜びを証ししたいと願つて今日まで御意を御祈りして求めて参りましたが、主の御恵みにより沖繩の〇〇さんを通じて先生に御便り書く時を与えられ感謝で一ぱいです。(テトス二の十二) 約十ヶ月主に御祈して来ましたが先生の事を昨日〇〇さんに紹介された時、箴言十九の二十一の御言「人の心には多くの計画

あり、されど唯エホバの旨のみ立つべし」が思い出され、アーメンと叫びました。私は先生を通じてカナダの主在る兄弟姉妹と共に主を崇め励まし慰めあいたいのです。先生、私は何時召される事か、凡てが御意ですが其の日まで愚かな私を御導き下さい。(詩三三) 自己紹介を致します。私は一九五三年八月五日大罪を犯して死刑の確定を受けたものです。そして其の少し前、此の世に生きる希望を失い、独房の鉄窓で首をくゞり自殺しようとした。その時です。六月十五日午前五時過ぎです。後一分位で此の世ともサヨナラだと思ひますと、最後に小さい時から今日まで生きて来たことが何だかなつかしいです。夜の星でも眺めて最後の一時をと思ひ、自殺の用意は出来ており、首をくゞるだけです。ふと空を見上げた時です。ハレルヤ、キリストが十字架を負われ、私の目がくらむ位の光の中に私を手でまねいて居られるようです。私は其の時思わず「神様!!!」と叫びました。それと同時に何ものかに頭をどやされた様で倒れてしまいました。再び目を覚めた時は手も足も冷たくなつた儘で独房の便所の横に寝て居る自分に気がつき、

死ななかつた事が悲しくなりました。そして夜明けでした。再び自殺する勇氣はありません、私は其の夜倒される前に見た不思議な幻をもう一度何であつたか深く考えてみました。それまで自分は信仰なんて考えた事ありません。外は段々明るくなつていきます。私は役人のために自由を失つて居ります。死ねない事が残念で、次々と涙が流れて来ました。私は大声で「殺して下さい!!」「此の世に神も仏もあるものか、若し正しい裁判なら、私は死刑なんてならない。人を殺した事もないのに」と自分は殺害した覚えがありませんから残念です。

事件は、私と友達と二人で私の知つた家に遊びに行き、其の家で友が悪心を起して、年寄の夫婦と女中の三人暮しの人ですが、私の目前で主人を殺してしまいました。原因は金です。そして友は其場で捕へられましたが私は逃げましたので五日後自首しました。私は逃げながら一人で自分は殺したのではないから逃げる必要はない、重くて十年、都合よくゆけば無罪と傲慢な心で自首した訳ですが結果は全く反対で友は生かされ、私は死刑の判決でした。友は大喜びです。私は其の時の恐ろしさは今も決して忘れる事は出来ません。その様な事情で人間の不公平を知り私は他人に殺されるより自分で自殺を望みました。先生御解り下さい。私の其の時の心の中を。でも自殺は失敗でした。が一切が神様の御摂理であつた事を後日悟らされました。然し当時一ヶ月前後は毎日何かと斗い決して平安はありません。そして私を知る者は、私は刑が確定して六ヶ月前後で刑の執行を受けると知つて居ります。それが法律の定めです。私はそう信じました。然るに先生、それ以来三ヶ年になります。今日も生かされ、そして獄舎から先生に御便書く時を与えられました。私は御祈する事を最初にしたのが自殺失敗の一週間後からですが今日まで生かされて居る事は神様の御恵みである事を疑う事は出来ません。私は御意の中に進む、たゞそののみ願ひました仰いで居ります。現在私の所に九人の死刑囚が居りますが、皆信仰より己の事が第一で私は日々迫害の多い生活です。然し主の御導の中に頑張る如何なる事にも耐えて居ります。皆が再審やら助命願書を出して助かる事に夢中ですが私の道はビリビ書一の二〇一―二四「生くるも死ぬるも我

が身によりてキリストの崇められ給はん事を願ひ、また望むところに適へるなり。我にとりて生くるもまた益なり。」私は只主と共に進みたい、それ以外に私には真の平安は決してありません。私の好きな聖句は、コリント後書四八です。「われ四方より患難をうくれども窮せず、為んかたつくれども希望を失はず」又詩五十一篇も好きです。私は母の愛、父の顔さえ知りません。ですから少しでも私と同じ境遇にある兄弟姉妹や病者の同胞に日々伝道して居ますが、沖繩にも約三年に居りますが、多くの兄姉と交ります。私は刑務所でなく拘留所に居りますから社会の生活と似て居ります。只不自由だけ、後は何でも買えますし、見られます。先生、私の小さな時からの歩いた道は此の次に書きます。今日は初便で何を書こうか迷ひ勝てましたが御恵みの中に書く事が出来て倅に思ひます。朝夕、私の窓から刑場を見て居りますが私の心は喜びに満たされ、今まで味う事の出来なかつた平安の中に日々を主と偕に歩み感謝です。先生、キリストを信じて居る事は何と言ひますか、平安のみです。(以下次号)

### 教報欄

#### 主日礼拝表

- 聖餐式(英) 午前八時
- 早 禱(日) 午前九時
- 聖餐式(日) 午前九時半
- 早 禱(英) 午前十時半
- 聖餐式(第一、第三主日) 午前十時半
- 聖餐式(第二、第四、第五主日) 午後七時半
- 晚 禱 午前十時半
- △教会学校 午前十時半
- 右コールドール昇天教会にて

#### 地方定期礼拝

- テーパー地方 第一主日 午後二時半、テーパー聖公会にて
- レイモンド地方 第二主日 午後二時半、信徒家庭にて
- ボクスフォール地方 第二金曜日、午後七時半、信徒家庭にて
- マグラス地方 第四金曜日 午後二時半、信徒家庭にて

#### 附属団体

- 婦人会(日本語の分)
- WA婦人会(英語の分)
- 青年会(日白人合同)

#### 毎日の勤行

早禱、晩禱、聖餐式は毎木曜と聖徒日午前七時半(其の他は随時随所)

#### 希望の春

- 草木一切が希望に萌ゆる如く、我らの靈魂をして、希望に満たしめよ。
- 地上の生活には種々苦難多し、されど我らに永遠の生命の約束がある。
- ゴルゴタの丘の十字架の後復活の輝があつた。苦難の後には必ず喜びが我らをまつて居る。

#### 牧師の御便り

光陰矢の如く、恩寵あふる一九五六年も過ぎ去つて、今日は早や一月の終り、この原稿を日本に送つて印刷され、再びカナダに送られて、読者の手に渡される頃は三月の終りか或は四月になるかも知れません。何れにしても零下二十度の寒さの中で皆様の御健康と主の御祝福を祈つて居ります。

さて私共は今感謝に溢れて過去一ケ年の思い出に感激を新に記して見ましよう。

- ① 昨年一月二月三月は大変な寒さで零下の気温が永く続き教会も伝道も大変困難であつた
- ② 初週祈禱会、大斎修養会等も忠実に、キヤノンカウエン、キヤノングラント、ブカナン、デオルフの四司祭と礼拝壇の交換をなし、日本仙台の揚野牧師を迎えて集会。
- ③ 三月十日には教区主教を迎えて始めての白人会衆の信徒按手式を行い、同二十一日には、WA婦人会創立総会。
- ④ 楽しいイースターと親睦のチャウメンマツパー。
- ⑤ 長男、テモテ・中山真の神学院卒業式に列席のため千哩の旅をして、BC州バンクーバーに往復、更に五月二十七日には執事としての聖職按手礼が、キヤルガリーの大聖堂にて行わる
- ⑥ 四月には日本聖公会第25回総会が神戸にて開かれ、私が主張して居るカナダへの日本移民についてのよき決議がなされる。
- ⑦ 六月には、ロツキー山の勝地バンフにて三日間牧師のコンフレンスがあり、SSのピクニックを行う。
- ⑧ 七月には田崎安男司祭を迎え日系人の野外礼拝、キヤルガリー・エドモントン伝道に出張。
- ⑨ 七月二十二日より八月十六日まで、夫婦で東部カナダ、アメリカの伝道旅行、行程五千五百哩、集会と礼拝二十二回に説教。
- ⑩ 九月には收穫感謝祭と大学その他卒業生祝賀会、日本よりの留学生、前川四郎、山根貞夫両司祭を迎え、又ミスパーサーを迎う。十月にはセロンのデメル主教の集会、十一月には全信徒家庭訪問や盛大なバザー開催

#### 聖愛便り

従来、下手な鉄筆で謄写版刷で六十号まで発行して来ましたが「聖愛」を本号から活字で出版する事に致しました。「折角こんな為になる聖愛をお出しになるのですら、活字になさつては如何ですか」と注意して下さつた多くの方に御応えするためであります。何時まで続きますか、凡てを信仰でやれるまでやるつもりです。御祈り御声援を願います。尚カナダ日系人聖公会報は、日英語で従前通り毎月発行致します。本誌へどしどし御寄稿下さいませ。

⑪ 十二月の忙しい最中に妻は手術を受け十二日間入院、でもクリスマス前日に退院、休暇で帰つて来た長男、長女と楽しいクリスマスを祝う。

斯く記して見ますと可成忙しい一年でした。最も感謝すべきは七八月の旅行中にバンクーバーで大病をした娘ノゾミが一命をとりとめた事です。此の年には米国の横田司祭、伝道師のミラング、合同教会の吉岡吉之助、赤川美盈両牧師が昇天されました。私達も何時召されるかも知れませんが何時世を去るにしても悔のない日々を過したく存じます。では皆様、共に信仰の道に精進しましょう。吾一

# 聖書

## に就て

中山吾一著

### 「靈の糧」の反響

聖書は、古代の書物はピブラスまたはパピラスと言う草よりつくりたる紙に書かれ、其の為に、ギリシャ語にて書物のことを、ピプロスと言いました。英語のバイブルなる語は、此のギリシャ語のピプロスより来り、なお、ギリシャの最初のキリスト教信者は、今の聖書となるベキキリスト教の記録を「タ・ピブリア」即ち「卓絶せる書物」と称えました。これが聖書なる語の起源であると伝えられて居ります。

聖書は旧約聖書と新約聖書との二つに大別せられます。旧約とは「旧き契約」新約とは「新しき契約」の意味であります。契約とは神が人類を救い給う約束でありまして、イエス・キリストの世に來り給ひし以前に於て神が人類に結び給ひし契約を「旧約」と言い、この旧き契約はキリストによる新しき救いによりて完成せられ、ここに新らしき救いの契約即ち「新約」がキリストによりて神と人類との間に結ばれました。即ち旧約を中心とする書典集を「旧約」と言い、新約のキリストを中心とする書典集を「新約聖書」と言うのであります。

過日は御著書「靈の糧」御恵与に接し、直ちに拝読、一片の御礼状を書く暇なく、凡そ全部の三分の二以上拝読、微妙なる感に満され居るのであります。本当に新約聖書を和らげた解説である事を感じます。

先ず簡明平易に判り易く説かれた靈の糧であります。

(1) 長い牧会生活の体験により平易簡明、信者、信者ならざるに拘わらず一読再読、何人の心にも浸透し得る善き説教であります。

(2) 特に吾人の慎しむべき万人の心底に潜在する悪癖・高慢・不遜の罪を打消す力ある良書であります。

(3) 戦後日本や沖繩に伝道された当時の感慨を挿入され、多年に亘る御研究の善き資料を加味したる訳文、学ぶべきもの多きを痛感。

(4) 多年にわたり、多くの牧者の名著、〇〇師、□□師其の他諸先生の著書を拝読せしも今回の「靈の糧」程共鳴。拝読鞭撻を受けし事は前例になし中山先生の靈の糧を拝味して謙遜の聖句を数々拝読したのであります。人間は如何に教育あり、知識・名譽・地位ありとも真に自我を打消して謙遜の徳望

ある人でなければ人の為、世のため、弱き悩める者のために心血を注ぐ事が出来ません。斯くして弱き者のために奉仕する牧者程尊いものはありません。

(後略)  
米國シヤトルにて  
P・T・O生

### 謹啓

先日は御著書「靈の糧」の御恵送に預り心より御礼申上ます先生の御著書はどの御本を読みますしても、読む程に聖靈の感動に接する気分を豊に与えられます。そればかりでなく言い得がたい魂の奥に喜悦が湧き出ずるを覚えます。感謝のうちに読んでは祈り、祈りてはまた読み返して、聖書の友として拝読致して居ります。願わくは一日も早く世界の極よりはてまで人々御救にあずかり、主の福音と御栄光とに満されん事をアメン

先生誠に申しかねますが若し「神の声を聴く時」まだ余り一冊御持でしたら御送り下さいませんか。

(後略)  
トロントにて  
戸栗時三

敬愛なる中山先生  
新年早々、先生の御心のこもつた立派な御本「靈の糧」をわざわざ御送りいただきました誠に有難うございました。何とスバラシイ思いつきでしょう。私

共のように日本語説教に恵まれない者にとりまして、大きな福音で御座います。又、教会での説教とちがつて再読三読出来まます事も大きな感謝でございます先生の御骨折に対し厚く御礼申上げます

(後略)  
BC州カムループス  
渡部松太郎

昨日御恵送下さいました貴著「靈の糧」有難うございました昨夜家内は読んでくれ(はしがき、目次、本文の二章まで)大いに感激しました。円熟した思想、聖書を自由自在に活用して良く主の聖意を伝えて居ます。それに天与の靈筆で遺憾なく表わして居ます。信者にも未信者にも良く解り、又牧師を益する事も大であります。本書の上に天父の御祝福を祈つて止みません。右御礼まで

草々  
ロシアンゼルス  
新里貫一

今日は、名古屋の甲村久員様を通して御著「靈の糧」を御送り戴きあり難うございました。先般は「日本が救われるために」神の声をきく時、「異端に就いて」三冊御送り下さいました重ね重ねほんとうに有難うございました。本校の生徒にも読ませるように致して居りますが大変感謝して喜んで居ります。

(後略)  
東京にて 中根式速記学校  
中根洋子

右の外左の方々から感謝の手紙や献金をいただきました。

(略敬語)

- 高橋久吉、岡琢磨、同宗三郎、鯛瀬八郎、岩淵喜代助、縄田勇平、遠山本三、勝田芳男、土屋竹次郎、重松朴、S山本、S小田柿、坂本英夫、村上真吾、村田才吉、森田スミ、中沢秀水、藤田又右衛門、本村優、高田義孝、上倉重夫、今吉吉之丞、大橋兼吉、石川清牧師、酒井七助、鳴瀬金太郎、山崎文吉、中筋ウマ、前川徳次郎、鈴木仙太郎、宮沢八郎、杉山岩吉、藤川光男、茂川良正牧師、富田正三、新本佐一、高芝曠、今井三男、上田伊八、坂本請太郎、小野寺豊亮、中島勝一、甲山四郎、工藤種明、阿部たま、山本きん、氏本勇、坂本孝太郎、S磯貝、中川清六、松林平次郎、木下善智、藤林時太郎、山本武、狩野とみ、今野英雄、佐藤庄太郎、牧志安能、渡辺順次、本常運一郎、小林伝兵衛、渡口ツル(東京)勝野千秋、西田辰蔵、内田貢、稲葉正信、山下辰蔵、平良専三(沖繩)
  - (宮城正幸(沖繩)喜屋武幸清(ハワイ)・伊藤三夫(日本)・大津源二、藤井弥十、米山力蔵、諸兄姉
- (以下次号)

伝道のページ

何故基督を

信すべきか

人間は神の子であり、神は天の御父様である事を知るためにはどうしても、イエス・キリストを信じなければならぬ原理について前回は述べました。今回は、私共は過去に犯した罪悪を、神から赦していただくために、基督を信じなければならぬ点について申し上げようと存じます。

一、義人なし一人だになし、人は天の父なる神を認めると共に、自分の罪深いことに心付くのが常であります。聖書には「義人なし、一人だになし」とありますが此の世の中に一人として神の前に罪を犯して居ないものはないのであります。「世の中の人は知らねど罪あれば、我が身をせむる我が心かな」と古歌にもありますように人は皆自分の罪のために苦しんで居るのであります。

然らば人は其の罪の問題を如何に取扱うかと申しますと、或る人は、其の罪を忘れようとして、勝手に自分勝手な理屈をつけて、享楽に流れ、酒を飲み、一時的な慰安を求めますがそれは罪を重ねるだけで解決にはなりません。

或る人は、学問を究め、有徳

の人になれば解決すると思うかも知れませんが、大学出の犯罪者の多いのを見ると学問必ずしも罪の解決になりません。

或る人は慈善喜捨等によつて罪が解決すると思うかも知れませんがそれも或る程度まででありまして、完全に人を罪から救い得ません。其処で自力で駄目だから他力だと、犠牲を献げ、或は他力本願で罪が解決すると思ひますが、勿論救の本質は他力でありますが、救つて下さる方は誰かと言う事になると、どうしても完全な人で完全な神で在り給うキリストに頼らなければなりません。

二、罪の身代り救主キリスト。自分の力で、自分の罪の解決が出来なくて悩んで居る人に唯一の福音は、イエス・キリストであります。

聖書の教えによりますと、天の神は其の独子基督を此の世に降し、十字架にかかつてまでも私共の罪の身代りとならせ給うたのであります。私共は弱い者で自分の力で自分の罪を贖う事が出来ません。然し救主は私共の代りに、其の山なす罪を一身に引受けて、尊い御血を流し、肉を割いて、救の道を立てて下さつたのであります。これは己に二千年前に成就して居るのであります。私共の救は己に完成して居るのであります。私共は

それを信ずればいいのであります。只信じて主イエス・キリストに依り頼めばいいのであります。難儀苦業、慈善喜捨、犠牲奉獻堂宇建設そんな事で人心深く根ざして居る罪を解決する事は出来ません。罪の救は神の恵であります。

「凡ての人罪を犯したれば神の栄光を受くるに足らず、功なくして、神の恩恵によりてキリスト・イエスにある贖罪によりて義とせらるるなり」と聖書に記されて居ります。何と有難い事ではありませんか。キリストに於てのみ、罪が赦され、真の幸福を受ける事も出来ますから私共は、キリストを信じなければなりません。

感心な人々

私共の教会で一番年長の日系人信者は八十三才の牧志安能兄で、沖繩の土族の出身、五十数年前カナダに渡航された沖繩からの最初の開拓者です。七十三才の時救われて受洗、今日まで病氣以外、礼拝を欠席された事がありません。零下二十数度吹雪で自動車を通らぬ時でも、二十分位も歩かねばならぬ処から必ず出席されます。一昨年の大病入院手術を受けられましたが全快され、昨年は御夫婦で殆んど凡ての日曜礼拝に出席されました。

た。全く頭が下る思いです。◎ドクターパーマー。此の方は昨年の三月始め英国から来られてコールデルで開業されたとても親切な御医者さんです。とても人々の信認を受け目の廻る程御忙しいのですが一年中一度も日曜礼拝を欠席された事はありません。時には急病人が出来て、礼拝後急いで出られる事はありますが、全く其の熱心さには驚嘆させられます。

◎ミスター。ブライアント。此の方は此処のハイスクールの先生です。熱心な方で毎週木曜早朝聖餐式は勿論大齋中の毎日の聖餐式を昨年は一日も欠されませんでした。斯かる信者の熱心さは凡ての人の模範であり最も善き伝道と思ひます。

全くなき尊い  
神の喜び給うものなり。

司祭 中山吾一著書

- ◎「靈の糧」 B6三〇四頁
  - ◎「神の声を聴く時」 B6一四〇頁
  - ◎「日本が救われるために」 B6一九二頁
  - ◎「祈禱書研究の手引」 (絶版) B6一九〇頁
  - ◎「美しき信仰物語」 (絶版) B6九〇頁
  - ▲「日常の祈と反省の榮」
  - ▲「病者への福音」
  - ▲「求道者のために」
  - ▲「神に聴く一万人」
- 右、パンフレット
- △「救いの宗教」
  - △「何故キリストを信ずべきか」
  - △「罪と其の救」
  - △「神支配の生活」
  - △「幸福に生きる道」
  - △「什一献金の教」
  - △「神による経済」
- 右、ツラクト

自然に与ふ

号逸生

汝、愛と平和  
希望と慰安の母  
万物の表現  
神への忠者よ。

宇宙の真理に  
はぐままれたる我  
霊と肉の此の身  
汝は我を育てぬ。  
汝には公平あり  
汝は汚れも  
人を納れぬ自我も

其の他、希望者は Rev. G. G. Nakayama, P.O.Box 461, Coaldale Alberta, Canada に申込んで下さい。尚説教集「聖なる愛」伝道旅行記「米國ハワイ伝道の旅」が近く出版されます。

# 聖愛

第62号

発行所

Rev. G.G. NAKAYAMA  
P. O. Box 461  
COALDALE,  
ALBERTA,  
CANADA  
カナダ聖公会日系人部

## 教説

### 内在の基督

司祭 中山 吾一

「我キリストと偕に十字架につけられたり。最早われ生くるに非ず、キリスト我が内に在りて生くるなり。」

(ガラテヤ書二ノ二〇)

凡てのクリスチャンは基督を心に宿して生活すべき者であります。如何に表面が立派に見えなくても、キリストをもたぬ信者は、中身の無い書函のようであります。如何に、雄弁でありまして、内容のない講演は人を感動させません。たとえ立派な家に住んで居ましても、愛のない家庭は風波がたえぬものであります。ではクリスチャン生活の内容は何か。申し上げるまでもなく、我らの裡に生き給う、活ける基督であります。

#### 一、内在の基督の必要

使徒パウロは「最早我生くるに非ず、キリスト我が内に在りて生くるなり。」と申しました。彼は最初、キリストの廻りを信

はあるのであります。

#### 二、如何にして基督を内在せしむるか

主を心の中に迎え入れようとなれば、先ず主の、実在を、実感せなければならぬ。活けるキリストに触れねばなりません。パウロは主の、実在にふれてから凡てが変化しました。

私は三十三才の時、心臓が弱くて、牧師も出来ないと言門医に言われ失望落胆して居たので、或る夜祈の中に、主の「我に來れ、我汝を休ません」との御声をきき、両手を掲げて私を呼んで居て下さる御姿を幻に拝して、それ以來病も癒され、信仰も一段と強化されました。此の主の、実在を経験する事がなかつたら私は今日の此の幸福を得て居らなかつた事でしょう。

次に、主を心の中に迎え入れようとなれば、全く自己を空しくしなければなりません。パウロは「我キリストと共に十字架につけられたり」と申しました。十字架につけられるとは、自我に死ぬる事でありませぬ。茲に、酒を一ぱい入れた徳利があると致しまして、それを入れ代えて醤油を入れたらならば、酒を出してしまわねばなりません。私共の心も同じであります。主を心に宿したいならば、先ず罪を悔い改めて、心

を主の宮とするために潔めなければなりません。

第三に必要なことは、主に絶対に従順しなければなりません。私共は時々自動車に乗せていたのですが、その時は全く凡てを運転手に委ねるのであります。又病気で手術を受ける時はドクターに凡てを委ねます。まして心にキリストを迎え入れましたならば、主の御命令に絶対に従わねばなりません。斯くして始めて主は、我らの心の中に偕に在し給う事が出来るのであります。

#### 三、基督我が内に在せば

主が我がうちに在せば如何なる結果が生ずるかと申しますと、第一に平和、平安があります。パウロはロマ書五章に「我ら主イエス。キリストに頼り、神に対して平和を得たり」と言つて居ますが、主に於てのみ平安があります。マタイ伝八章には「主が弟子と共に舟に乗つて、ガラヤ湖を渡つて居られる時、急に嵐が来て、舟が沈まんとした時に、主は安らかに眠り居給うた。弟子達は恐れて主を呼び起し「主よ救い給え、我らは亡ぶ」とうつたえました。其の時主は一言をもつて波と嵐とを祭り給うたため嵐となつたと言ふ記事があります。同じ人生の旅路ではあります、キリストと

偕に同じ舟に居る者、即ち主を心に宿して居るものには平安があります。

「汝ら心を騒がすな、神を信じ又我を信ぜよ——、我れ平安を汝らに遺す、我が平安を汝らに与ふ。」(ヨハネ十四章)とは何たる幸なことでありませぬ。次に主と偕なる生活は世に勝つ力を与えられる生活です。私共は世に居る間種々な患難に会います。然し主は「然れど雄々しかれ、我已に世に勝てり。」と申されました。全智全能の神の力が偕なる時凡てに勝ち得て余りある生活が出来ます。

「我が外なるものは破るれど内なる生命は日々新なり。」とは主の内在なくしては知る事の出来ない経験であります。

次に、主を心に宿して居ります人は常に喜びに満ちた生活が出来ます。パウロは「汝常に、主に在りて喜べ。」(ピリピ四ノ四)と申しました。主に在りて喜ぶ喜びであります。それは患難をも喜ぶ喜びであります。(ロマ五) 運の悪い時も、病気の時さえも心の中に喜びをもち得る生活です。

主を心の中に宿して、平安のある、勝利ある、喜びある人生を過しませう。

主の御内在こそ、凡ての信徒に与えられた特権であり、凡ての信徒の求むべき事でありませぬ。

證詞のページ

死刑囚の父(二)

私を父と呼ぶようになった死刑囚の〇〇君の手紙は、続いて次のように書かれています。「主に在る者は、悲しみの中にも苦しみの中にも常に喜びがあり本当に感謝です。私はビリビリ本当に感謝です。私はビリビリ書四章四一八をよく人々に言いますが、如何なる時にも、主に在るなら、アーメンです。先生の御仕事も日々御忙しい事と存じます。日本の獄舎から先生のため日々祈つて居ります。先生私のため、弱い私のため今後共宜敷御願ひ致します。私は孤独ですが主に在りて恵まれた死刑囚です。」

先生の御家族の上、カナダの主に在る兄弟姉妹の上に主の御祝福豊かにありますよう、では先生、又次の御便りの日まで、御気遣よう。

一九五六年十二月十三日  
獄舎にて 〇〇登拝

二仲 この生活で視力を弱めました。乱視です、乱筆御免下さい。

私の父はアメリカに居るかも知れません。母は芸者でした私は私生児です。出来ましたら此の淋しい私にお手紙下さい。

私は右の手紙を受取つた時、此の不幸な青年の心中を思うて止めどもなく涙が流れて来ました。此の子が自分の真実の子であつたらと思うと尚更に、何かしら愛情が湧いて来て、何とかして慰めてやりたいとの心で一杯になりました。そうしてその事を、すぐ手紙で書いて出したのですが、その願末は後にゆずるとして、茲では、この死刑囚を私に紹介した、沖繩の一少女を皆様に紹介しなければなりません。彼女の名前を仮に信枝さんと呼ぶ事に致します。信枝さんは実に、世にも気の毒な癩病患者で、△△園と言う療養所にキリストの救を求めて居た可愛い少女です。私が沖繩開拓伝道中、此の△△園に行つて伝道説教をした時、信枝さんも熱心に私の話を聞いてくれた一人でした。

劇務と、風土気候の相違から私が健康を害し、一年二ヶ月の後沖繩から帰加して後に信枝さんから次のような手紙が来ました。

「イエス様の御名を讚美致します。始めて御便り致します。先生が沖繩から御帰りになつて早や一ヶ月の月日がたちました。其の後先生には御変りなく主の御業のために御励みの事と拝察致します。

私は、先生が沖繩御滞在中△

△園の私達を御訪ね下さつて尊い霊の糧を御与え下さつた事を心から感謝致します。

先生は御帰国前に、青少年乙女を集め、私達のために特別な集会をもつて下さいました。そうして先生の少年時代にあらゆる試験と体験されさせた今日までの御話に私は、深い深い感激を受け、そうして先生を忘れることなく何時も御祈の中に先生を覚えて居ります。

私は昭和二十四年に発病致しまして早や三年を過ぎてしまいました。当時神様を知らなかつた私は大変悲しみました。入園しまして始めて神様を知る事が出来ました。それ以来大変恥しい事は私の誕生日は十二月二十五日でありますのに、その日が救主イエス様の御生れになつた喜びの日でありますことさえ知りませんでした。それは健康時代全く無信仰者であつたためでありましてクリスマスに私の母が私を生んで下さつた事を知らない程大変罪深いものであります。

信仰によつて救われました今日、本当に私が頼者になりました。その私を一日も早く救つて下さるために屹度愛の鞭を下さつたに相違ないと療養の日々

を感謝に過して居ります。斯うして私が△△園に導かれて神様を知る事が出来ましたのも実は私にとりましては御聖言を学ぶ楽しい海浜学校の様な感じが致します。

「我が子よ、主の懲戒を軽んずる勿れ。主に戒められる時倦むなかれ、凡て其の愛する者を懲しめ、凡てその受け給ふ子を鞭ち給へばなり。汝らの忍ぶは懲しめのためなり。神は汝らを子の如く待ひ給ふ誰か父の懲めぬ子あらんや」(ヘブル書十二ノ五―八)人間は神の聖言を聴く事の出来ぬ罪の不具者です。ですから人類を救わんがために己が身を罪の犠牲とせられました。愛の神様は一人でも罪に亡び行く不具者を決して見捨て給わず、あらゆる救の手をのべて徹底的に救つて下さるために徹底的に愛の鞭をお与え下さる事を知りました。即ち今の私の試練が神様のなし給う御意であります。

御承知のようにスバラシイ「祈の家」礼拝堂が出来ました。先生が来られた当時の仮コンソートの礼拝堂は雨漏りがありまして、雨の日は大変困りましたが今後は雨の日も安心して礼拝が出来る事を感謝致して居ります。私の寮は乙女寮と申します。昼は重病

棟附添いや、共同炊事の業をしまして夜は学校です。〇〇看護婦さんの御在園中同先生の許に「光会」をもつて聖書研究を致しましたが、先生が御弱体で御静養のため日本に帰られましたので今は〇〇先生や教会委員の方々より日曜の晩毎に聖書を学んで居ります。園内にもまだまだ救われず居ない多くの療友が居ます。事を心淋しく思います。本當に先に救われし私はもつともつと神を信仰し一日も早く療友皆が神様を知る事が出来ませうに御祈りしなければなりません。それは何一つ功のない私に神様が御与えになつた尊い使命である事と思ひます。どうぞ先生も△△園のため御祈り下さい。私は実にイエス様の御蔭で凡ての罪を赦されました。其の御恩にそむかないように今後、主の御意のままに歩んで行きたいと願つて居ります。十一月も半を過ぎますと虫の声も消え沖繩もすつかり冬の淋しさを感じさせています。

では先生の御一家と御教会の上主の豊かなる御祝福を御祈り致します。

かしこ  
中山吾一先生  
〇〇信枝  
(右は本人の承認を受けて原文のまま記しました。)

# 聖愛

第63号

発行所

Rev. G.G. NAKAYAMA  
P. O. Box 461  
COALDALE,  
ALBERTA,  
CANADA

カナダ聖公会日系人部

## 教説

### 聖靈なる神

司祭 中山 吾一

「人は水と霊とによりて生れずば、神の国に入るに能はず」

(ヨハネ伝三ノ五)

主イエスは「如何にせば救われるか」との疑問をもつて来たニコデモに、「水と霊」にて新たに生れる必要を説明なさいました。「水」とは悔改めて、洗礼を受ける事を意味し、「霊」とは、神の御聖霊の御力によつて新しく生れる事を意味して居ります。

「我は聖霊を信ず」と使徒信經でとなえます。聖霊とは如何なる御方でありましょうか。

#### 一、聖霊なる神

アタナシオ信經には「父も子も聖霊も、神たる事は一つなり其の栄光等しく、威稜限りなし父にある如く子にもあり、聖霊にも在るなり、父も神、子も神、聖霊も神なり、されど三つの神にあらず、唯一つの神なり。」

と説明してあります。聖霊は単に一つの力、感化や恩恵や賜でなく生ける神で在し給います。

ニケヤ信經には「聖霊は生命と与ふる主、父と子より出で、父と子と偕に拝み崇められ、予言者によりて語り給ひし主なり」とあります。それ故に私共は聖霊なる神を崇め、拝み、感謝祈禱を献げねばなりません。

然るに聖霊なる神への信仰が父なる神、子なる神への信仰程明瞭になるのが困難のようです。それは、私共は自分の肉体の父の愛、又信賴等を通して天の父なる神を推知し、又子なる神については、其の愛肉降世、地上の御生涯を通して、私共に密接の關係を有し給いますのに、聖霊の神は、私達の五感を通して推量し、実体を悟る事が困難であるからであります。殊に未信者は、心が開かれて居ませんか

ら、聖霊は其の心に入り給う事が出来ず外部から御働きになつて居られますが、信仰が出来ますと聖霊は心の中に入つて其の人に働き、罪を語らしめ、又真理を教え次第に聖霊の神を明白に知る事が出来るようになります。聖い神の霊を知るためには私共も信仰によつて霊の眼が開かれ、霊的生活をしなければなりません。

#### 二、聖霊の啓示

聖霊なる神が啓示せられたのは人類の進歩発展が徐々たる如く徐々たるものであります。旧約時代には、能力の象徴として人格を備え給う神の御性質を多少伺ひ知る事は出来ましたが

即ち①「神の霊水の面を覆ひたり」(創一ノ二) ②「我が靈、永く人と争はず」(創六ノ三) ③「神の靈をこれに充たして智慧と了知と知識と諸の類の上に長ぜしめ」(出三一ノ二一六) 等であります。

然し、新約時代に到つて、聖霊は大なる啓示となり給いました。主イエスの御降誕に対して天使がヨセフとマリヤに告げた言に「其の生れ給ふは聖霊による」とあり、主の御洗礼、荒野の御修業、ゲッセマネの祈の時等、主の在し給う如常に聖霊が在し給うたと言えましよう。更に主は十字架の最後を遂げな

さる前夜、弟子を集めて最後の晩餐をなさいました時に、聖霊の来り給う事を御約束なさいました。そしてそれが実現したのが使徒行伝に記されて居るペンテコステの、聖霊降臨でありまして、「使徒行伝は、聖霊行伝と言われる程聖霊なる神が使徒達を通して御働きになりて居る姿を見る事が出来ます。ペテロ後書一章二十一節によりますと聖書は、神に属する聖き人、聖霊によりて悟りし事を記したものと説明してある通りです。此の聖霊の御能力によつて初代のクリスチャンは驚く可き業を致しました。

#### 三、聖霊の御働

①慰め主——聖霊が慰め主で在し給うとの御約束はヨハネ伝十四、五、六章に記されたる処で慰め主なるギリシヤの原語は、パラクリート (Parakletos) で広い意味を有し、慰め主たると同時に擁護者、助け主、力を与える者、仲保者等の美しい意味を含んで居ります。パラクリートなる語は、バラ(共に)クリート(語る)との二つの語を合せたもので……ハローと呼びかければ「ハイ」と答えるような身近に在して、共に語つて下さる事此の広い世界に、誰一人語る友もないと思えるような時にも共に居て慰める方と言う意味です。

何たる有難い事でしょうか。  
②聖霊の御働きについて次のように聖書は記して居ります。

- (1) 生命創造 (ヨハネ三ノ五)
  - (2) 神の愛を注ぐもの (ロマ五ノ五)
  - (3) 導くもの (ヨハネ一六ノ一三)
  - (4) 感動せしむる者 (テモテ後三ノ一六)
  - (5) 執成すもの (ロマ八ノ二六)
  - (6) 内在するもの (ヨハネ四ノ一四)
  - (7) 潔める者 (コリ前六ノ二)
  - (8) 満ちあふれる者 (ヨハネ七ノ三七)
  - (9) さとらしめる者 (ヨハネ一六ノ八)
  - (10) 治むる者 (ヨハネ一三ノ二)
  - (11) 新しくする者 (テトス三ノ五)
  - (12) さぐるもの (コリ前二ノ一〇)
  - (13) 教ふる者 (ロマ二ノ一五)
  - (14) 証明する者 (エペソ二ノ一八)
  - (15) 頭はす者 (エペソ三ノ五)
  - (16) 予言するもの (ルカ四ノ一其他)
- (17) 神を認めしめる者 (ヨハネ一六ノ一) 其の他が説明されて居ります。主は御復活後弟子達に「聖霊を受けよ」と言いつゝ息を吹きかけ給いました (ヨハネ二〇ノ一三) 実に聖霊の御恵を受けずしてはクリスチャンとして生きる力はありません。ペンテコステの日に使徒達が聖霊を受けましたように、現代のクリスチャンも聖霊の御恵を受けねばなりません。聖霊は聖い神の霊ですから私共は罪を悔い改め、心を潔めて、絶対に神に従う信仰をもつて、聖霊の御恵みと御慰めをいたゞきたく存じます。



證詞のページ

死刑囚の父 (三)

前号に記しました、癩癪養所△△園の少女○○信枝さんの手紙は、世の多くの悩みある人々を慰めると思っています。考えてもごらん下さい。十七、八の乙女が、色々な楽しい将来の夢を見て居る時、急に不幸な癩病の診断を受けた時の気持ちを！私達はどうなにか苦しめても、信枝さんの其の時の心持に比べたら何でもありません。然かも彼女は、此の不幸を通して神に救われ、それを感謝して、大いなる使命に立つて居ります。読者諸君と共に△△園だけでなく日本や沖繩の凡ての不幸な人のために祈りましょう。

右の手紙で○○信枝さんがどんな人であるか、そうして私とどんな関係にあるか、皆様に御判りになつた事と思ひます。信枝さんと私との通信は其の後も続いて今日に到つて居りますが或る日の手紙にはこんな事も書いてありました。

「先生御返事を感謝にあふれながら幾度も、拝見致しました。誠に有難うございました。(中略)私は教会で諸先生方の御話を聴きます時、声なき声といいますが、神様の御さゝやきの声

枝さん宛の手紙

を深く心に感じます。或る人々は御話を聞きましても、今日のは御話はよかつたとか、まづかつたとか云つて、何だか御聖言を議論的に思つて居るようで悲しく思ひます。つまり神様は多くの先生方を通して聖言を知らしめて居られる訳ですが、人はそれを聞く事の出来ない大変罪深い不具者であります。悲しく思ひます。でも此のような、何一つ功のない、哀れな私達に神はすばらしい図書館を与えて、これ以上不具者にならないようにと執成しをなされて居ります。即ち聖書を私は、図書館と呼んで居ります。(中略)

私は自分の写真一枚を同封致します。此の写真は二週間前に一人の死刑囚の方に送るために撮りました。△△さんと言ふお兄様は(二十五才)罪を犯して、北海道の刑務所に居られますが、悲しい事に死刑の宣告を受けて居ます。殺人と言う恐ろしい罪を犯しましたが始めて神様の愛を知りました其の御兄様の信仰が大変強くなり、私は自分の信仰が恥かしい位です。此の方の祈の句を記しませうね。

「夕の空にぬかづいて心に祈る友の幸、嵐に雨に散らすなと、みんなを守る愛の花、今宵は夢の花園に優しい鐘が鳴り渡る。」

お兄様は、凡ての罪を神様から赦され立派な神の子になられたが、法の審判を通れる事が出来ない事と思ひますと御気毒でなりません。又それに幼い時に母上が永久の旅に立たれたので父親一人に養育されましたが不幸にもそのお父さんも亡くなされたそうです。それから義兄から憎まれ、遂に家出をされたそうです。大変みじめな境遇のため、遂に取返しつかぬ罪を犯されたとの事です。ですけれども、ボーロ様が言われた様に「人もし律法によりて義とせられなば十字架にキリストが死に給ひしは徒足なり」との聖句を信じ、必ず神様は私の祈を御き下さると思ひ熱心に祈つています。どうぞ先生も此の方のために祈つて下さい

△△さんも未だ社会には真の神を知らぬ同胞が多い事を悲しむそして皆が誰の所有物でもない愛と真の幸福を求める事が出来るようにと、一生懸命御祈りして居るとの御便り下さいました先生、私の家庭について簡単にお話致しましょう。郷里は園から約六十キロ離れた田舎です。両親も健在で、兄弟姉妹六人です。丁度私が入院しました年、兄は脊髄を患いだして四年目の春でした。当時無神論でありま

した、私の一家は大変悲しみ、特に母は厭世的になつて居ました。兄の病は重態で、仕方なく病院からつれ帰りに、自宅で治療して居ました。しかし私は真の神を信じ、真の幸福を得ました喜を一日も早くお証ししたいと思ひ御便りや聖書を送りました兄の病もすつかり回復しました今は一家信仰生活をして居ます

本当に人間の苦難はかく神に近づく道であります事を、心からアトメンと感謝して居ります。私は昼食後筆をとりました。今時計は二時過になつて居ります先生、お話はまだ、ありますが、只今からクリスマスまでの一週の稽古がありますので之れで失礼いたゞきます。御聖業の為、御働き下さる先生を守り下さるよう神様に御祈り致します。

信枝

中山吾一先生

呼鳴何と言う美しい信仰でありましょう。自分の身の不幸をかこつ事をせず、自分一家を救いに導き、死刑囚のために愛の手をのべ、悔改めに導きつゝある此の乙女の業の前に、私は只頭を垂れる他に道がありませんでした。

さて、話を源にもどして、九州の或る刑務所に居る△△昇君

の事を考え又知らせましょう。登君の第一回の手紙を受取つた私は沖繩の癩女信ちやんの事も考えながら次のような手紙を登君に出しました。

「万物の創造主なる主の御名を讃美致します。全く救主イエス。キリストに在りて、真の信仰の友、兄弟なる登君、君の最初の手紙を泣きつゝ読みました君も人、私も人、然かも聖なる神の御前には同じ罪人、君と私と其処にどれ程の差がありましようか。でも有難い事は、お互に、主の十字架の御贖罪によつて救われたと言ふ事です。全世界の富にも優る、此の救、最後の一息の時まで、此の喜びを語り伝えましようね。

私は一九五一年から二年にかけて沖繩に伝道して居た時に○○信枝さんに会いました。あの悲しい境遇にあつても凡てを主の御恵みとして信仰の証しをして悲しめる人、苦しめる人の友となりて慰めて居られる同姉の聖き業の教に神に感謝し、彼女の前に頭の下る思いが致します君も又、生と死を通して主のよき僕として、よき証の生涯を送つて下さい。

君の生立ちについて更に御き、したいです。御歳は幾才ですか御出生地は何処ですか詳しく知らせて下さい。」(続く)

### カナダと 日本移民問題

一九五五年エドモントン市の大学講堂で開かれた、第十九回聖公会総会で私は「カナダは日本移民を許可すべきである」との決議文を引掲げて、主教並に聖職信徒代表約三百五十名に日本の現状を訴え、遂に其の決議は通過して、オタワの政府に送られ、更に昨年の聖公会社会局理事會でも同じ決議がなされ政府に送られている。不幸にして未だ一般日本移民の門戸は開かれていないが、私が主張するまで、一つも出なかつた移民問題がカナダ同胞又白人間で、更に日本聖公会に於ても問題になつて、少しずつではあるが、カナダの移民政策が日本人に好意的になつて来たのは嬉しい。

然し此の問題は国際的な仲々大きな問題で、急速に解決するとは思えぬが、我々は機会ある毎に努力しなければならぬ。一体日本人は、カナダと云う国をよく知らない。そのためにカナダへの関心が少い。そして此の世界一将来のあると言われる天然資源の豊かなカナダ、文化の高い良き国に移民を希望する人が少いとは悲しい事である。カナダには南米諸国にあるような革命もなければ未開の国でもなく実に文化の国である。我らは

此の良き国に、神の恵みにて移住し、市民権を与えられ、凡ての文化の恩恵に浴して居るだけで満足すべきではない。戦後二回も日本や沖繩を訪問した私は人口過剰で悩んで居る日本の現状を見るにしのびず、何とかして一人でも日本の移民をカナダに來られるようにしたいと願つて居るのである。

それではどうしたらよいか。私見を述べる事を許されるならば、第一にカナダに在る日系人がもつと良きカナダ人になる事である。戦後、カナダ全土に散在した日系人は、職業、教育、娯樂、スポーツ、文芸等其の他白人に真価を認められて来たが政府は依然として「好ましからぬ同化せぬ移民」との觀念の許に日本移民を許可せぬのである。我らはもつとよきカナダ人となつて其の誤解をとかねばならぬ。そのために、最も有力な方法は日系人が目覚めて、他のカナダ人のように、同じ神を信じ同じ宗教に生きる事ではあるまいか。

第二に我らは、凡ゆる機会を捕えてカナダ政府に、日本移民を許すべく喚願すべきである。それは恥ずべき事でもなく失望すべき事でもない。特に私は日本の外務省や、カナダに在る日本の大使や領事方に、もつともつと真剣にこの問題を取扱つて

カナダ政府に交渉してもらいたいと願うものである。

第三に私は、日本の一般大衆をして今、少し熱心にカナダ移民に関して自覚せしめる必要があると思う。日本人にとつて移民問題は死活問題である。然るにあれ程の生活苦に苦しみつゝ、案外、移民問題について関心が少い。これは実にゆるがせに出來ない事ではあるまいか。

第四には、日本のキリスト教会が此の問題を今少しく真剣に取あげて、信徒を啓発すべきだと思ふ。キリスト者は世界共通の父なる神を信じ、人類皆同胞兄弟姉妹主義の中に立つてゐる故に、キリストの理想を理想とするカナダの国是を最もよく理解する筈である。然してカナダは斯る移民を希望して居るのである。だからキリスト教会は、カナダと日本移民との橋渡しとなつて、日本のよきクリスチャンを移民として送るよう努力すれば「好ましがらざる移民」との言葉は姿を消し、日本のキリスト教会、殊に青年信徒に大きな希望を与える事になり、従つて教会も盛んになり、日加兩國の親善も増して、それは日加の貿易、文化交流にもよき結果を來らせると信するのである。

敢えて、心ある人々の努力と神の祝福を祈り、一日も早く日本移民の許されん事を希う訳です

### 証詞

#### 私は何故改宗したか。

- 一、キリスト教徒の崇め奉る神は天に在す我らの父なる神であり一切の真理の本源の即ち主なる神であります。
- 二、神は人の手で作つた宮よりも人の心を宮として宿り給います、真の神は偶像ではありません。
- 三、宇宙万物即ち天地に満つる一切のものの創造主なる神であります。
- 四、世界の凡てのものよりも大いなる權威と能力の所有者であり十億土のその先きの先まで支配し給う神であります。
- 五、信仰によりて諸病をも癒して下さる癒主なる神であります。
- 六、現世のみならず、死後の世界即ち靈界にても我らは神の御支配を受けるのであります。
- 七、この神の教えが文字となつて誌されたのが聖書であります。右のような事を覚りましたから改宗しました。

米國サクラメント  
野口俊次

### 感謝

常に私達を愛して左の雑誌を送つて下さる方々に心から感謝致します。シャトル聖公会週報、桑港聖公会週報、フアーラー自由メンヂスト教会週報、ミネソタ日系人合同教会週報、「聖メリー」教会報、トロント日系人聖公会報、トロント合同教会「牧笛」アルバタ合同教会報、ケロナ：禪山牧師「宝血」クリープランド合同教会報（泉弘牧師）日本聖公会新聞（東京）、沖繩聖公会時報（遠山隆夫司祭）、東京教区時報、同「はこぶね」大阪教区時報、神戸教区誌「神のおとづれ」、神戸「聖ミカエルの友」（八代主教）、「いづみ」（呉聖公会青年會）、「愛媛聖公会」、「大洲聖公會青年會」長崎の聖公會週報（後藤敏光司祭）神学の友（聖公會神學院）「聖山」（鶴岡聖公會）立教小学校、PTA並にキャンプ、「十字架」（亀谷凌雲牧師）キリスト教大新聞（ともしび社）「ビューラ」（岸和田聖公會）「虹」（野の花）（野辺地天馬先生）「つた」東京聖ヨハネ教会「葡萄園」東京聖テモテ教会「聖友」（岡谷聖公會青年會）ハワイの新聞（吉本務兄）南米の新聞（金子勇次司祭）彦根聖公會報や新聞（大橋庄平兄）「さとしの道」（上田一良主教）「公會問答の話」（相沢誠四郎司祭）

◎苦難は我をして神に近づかせる。神は我をして苦難に勝たしめる。

◎よく／＼するな。凡ての人は皆死にて審判に合ふのだ。正しく審く者に凡てを委ねよ。

### 何故基督を

#### 信ずべきか

(三)

トを信じなければなりません。不思議な事に、理屈なしに、キリストを信じますと、其の人の心が新しくなり、する事、なす事が変わって来ます。

聖書の中に、ヨハネ、ヤコブと言う二人の青年は、始めすぐ腹を立てるので、或る時、主はホルネルゲ即ち雷の子と言う名をおつけになつた程でしたが三年、主と偕に生活したために、「愛の使徒」と言われる、聖ヨハネ「実行の人」と言われる聖ヤコブとなつた事が記されて居ります。取税人マタイは、あの美しい、山上の垂訓を書くような聖マタイとなり、大迫害者ソロは大使徒パウロになりました。

私は少年時代は、自我が強く、人には一歩もゆずらぬと言つて、人には一歩もゆずらぬと言つて、人による頑固な性質でしたがキリストによつて救われて、如何なる事にも、人とは争わぬ、たとえ其のために誤解され、不利な立場になつても、黙々として「凡てを主に委ねて」忍耐する事が出来るようになりました。

先達つても、トロントの一人から手紙が来ましたが其の一節に、「私も、とうとうキリストに捕えられて先日家内と二人で洗礼を受けました。先生にも永い間導いていただきましたが頑迷な私は仲々主の教えに耳を

かたむけず全く恥しい次第です。洗礼を受けて見ると、新しい世界が私の前に開かれて、実に始めて人生の意義を見出し「まて云々」とありました。私の伝道牧会の生活中で、一番楽しい事は御導きした人がキリストによつて新生の楽しい生活を始める事でありました。

#### 喜び溢れよ 牧男生

喜びあふるゝ心たれ  
イエスが汝を贖つた  
神が汝を愛して居る  
受け入れよ神の愛を  
生命は、神だ永久だ。

真理をしたう心たれ  
人なるイエスが示された  
人の行くべきその道を  
神の無限のその愛を  
永遠の生命うけ入れよ  
喜びあふるゝ心たれ  
今は生命の伸ぶ時だ。

#### 中山牧師著書の反響

拜啓此の度は又「霊の糧」と題する名著御恵授下され誠に有難く感謝に堪えません。忙しい牧会の中に、よくも御著述が出来るものと感銘して居ります。然かも、内容の整つた有意義な

論説を見て感激して居ります。

羅府美以教会

牧師 町田 保

先生、其の後御変りありませんか。先日は霊の糧を御送り頂きまして誠に有難う御座いました。教会に行きましても、英語の御話のよく解らない私共にとりましては殊の他に有がたく、丸で目のあたり先生に接してお話をうかがつて居るかのよう思ひまして今も常に読ませていただきます。 (後略)

ステブストン

阿久根直之函

本日御著「霊の糧」一部御恵贈下さいまして誠に有難う拝受致しました。先生は牧会御伝道に御多忙中ヨク、マア数々の著述をなさいます事と敬服致して居ります。

私は先日御著「日本が救われるために」を拝読し、トテモ面白く有益で、巻を覆う事が出来ぬ程でありました。(後略)

パサデナ長老教会

牧師 国分壬千郎

右の外、幾百通も手紙が来て居りますが紙面なく発表出来なく残念です。又御献金下さつた左の方々に御礼申し上げます

(略敬語)

永田彌三郎、大林、石川義衛、

- 新里貫一牧師、森山英吉、栗須オクノ、K津田、中釜長太郎、中釜竜太郎、ドクター下倉、坂本忠義、花田金季、三宅五十松(米園)、松下一郎、内田英一(米園)、夏原とよ、山本カク、山辺スズ、森次正春、太地豊吉、ミセス金丸、小林いく江、谷田部つね、大洞武光、山下糸枝、志賀辻尾、岩本喜代吉、生田、岩田高満、安井雪乃、北川源蔵、加藤定五郎、本常虎造、渡辺忠正、川本孝一、金本トシ子、宮坂満喜治、藤野一基、松岡今太郎、高岡信子、門永繁次、牧野政野、及川直人、上釜今太郎、徳永寿太郎、杉浦三之助、安沢正夫、川島エキ、橋田M、M山本、大前、伊藤宗吉、新橋善吉、矢野盛、佐藤庄太郎、阿久根直之函、田中高良、武田仲五郎、町田元一、常盤政治、竹中徳次郎、新見ルイ、角利頭、佐々木茂、萩野林蔵、山村政喜、入江コヤス、佐々木菊三郎、井頭京子、林初太郎、西岡栄太郎、瀬古繁夫、池田テル、藤田猪蔵、千葉松代、小野寺婦美香、岡田カヨ、角伊勢松、平松豊志、有間勝子、永見時子、中村信、春原順一、北村庄太郎、曾我惣弥、坪内百三、田部、赤木正太、古谷明義、親川徳助、林ミセス、岸時子、建部寛吉、日夏庄太郎、梶浦万喜治、上出邦三、田上S諸兄弟(以下次号)

# 聖愛

第64号

発行所

Rev. G.G. NAKAYAMA  
P. O. Box 461  
COALDALE, ALBERTA,  
CANADA  
カナダ聖公会日系人部

## 教説 三位一體の神

司祭 中山 吾一

「父と子と聖霊との名によりて洗礼を施し、我が汝らに命ぜし凡ての事を守るべきを教へよ。視よ、我は世の終りまで常に汝らと共に在るなり」  
(マタイ六ノ元。三)

聖書の中に、三位一体と言ふ言葉はないが其の綴字は多くある。即ち、父と、子と聖霊の名によりて洗礼を施せ。「願はくば、主イエスキリストの恵、神の愛聖霊の交、汝らと共にあらん事を」等である、と言つた人があります。三位一体の神とはどう言う意味か、其の原理について少しく学びたく存じます。

三位一体とは、唯一の神に三つの位があると言ふのであります。三つの位があると言ふ事は、三つの神があると言ふ事ではありません。キリスト教は何処までも一体の神、唯一の神を信じてるのであります。「汝、我の他

何ものをも神とする勿れ」と十誠の第一に教えられ、「イスラエルよ聴け、主なる汝の神は唯一の神なり」とも教えてあります。此の唯一の神が、宇宙天地の創造主、支配者で、全智全能の神で在し給ふ事を信するものがキリスト教であります。更に人類は皆其の神によりて造られ養われ育てられて居るもので神は人間の父、我ら其の子であります。しかるに、子が親に叛いて罪を犯し、不幸に不幸を重ね、生活して居るのを神は見るに忍びず、人間を救はんために、人となりて来給うた、即ち肉体をもつて降世なされたのがイエス・キリストで、三十三年の地上の御生活は肉体の制限をうけ、完全な神でありながら完全な人として生活なされた、此の人間となり給うた神を手なる神イエス・キリストと申し上げるのであります。更にイエス・キリストが十字架で犠牲の死を遂げて、人間の救の大業を成就し三日目に甦り、昇天なされて後に御約束通り人間の心に来りて住み、教へ導き慰め助け給う、目に見えぬ霊なる神を聖霊と申し上げるのであります。此の三つの御名はありまして、それは唯一の神でありまして、三つの異なつた神ではないのであります。丁度私共は一人の人間でありまして異なつた立場で異なつた名称で呼ばれるような訳であります。私は子供の前では父、妻の前では夫、信徒の前では牧師と呼ばれますが、私個人は唯一でありまして、異なつた名称で呼ばれるだけでありまして、私は一つの心をもつて居りますが物が感ずる感情、物を知る智、物を判断決定する意志、情意から成り立つて居ますけれども私の心は一つであると同じやうな意味であります。太陽は一つであります。それは光であり熱であり、色(プリズムを通すと七色になる)等でありまして、右のような説明は不完全です。けれども三位一体の大体の原理が御判り下さいました事と存じます。

### 二、三位一体の神の目的

神の御目的はその創り給うた人間が、幸福平安の中に生活する事でありました。しかるに不幸にして罪が世に入りまして、その幸福はうばわれ、人は悲惨な罪の生活をするやうになつたので、神はその悩める人の子を救はんために人として来り給うたのであります。

「夫れ神は其の独子を賜ふ程に世を愛し給へり、凡て彼を信する者の亡びずして、永遠の生命を得んためなり、神其の子を世に遣はし給へるは世を審かんためにならず、彼によりて世の救はれんためなり」  
(ヨハネ三ノ一六。一七)

これはキリスト教の無窮の奥義、神は一体にして三位なる事と神の愛御降世は罪人を救はんとの大原理のためで、此の一句があれば、聖書全体が失われても、キリスト教は成り立つと言われる程重大な聖句であります。此の地上に於ける神の啓示の原理をキリストはニコデモに啓示し教へ給いました。

ニコデモは此の神の大啓示に對し、不信仰のために、主がただ単なる「神より来れる師」と言う位に考えていました。これは又現代人がなお、神にして人なるイエスに對して抱いて居る觀念であります。キリストは神より来れる師で満足し給う方ではありません。「我と父とは一つなり」「我を見し者は父を見しなり」「我は道なり、真理なり、生命なり」等の主の言葉はそれを充分物語つています。パテスマのヨハネは「我は荒野に呼ばはる声だ」とその使命が彼自身より大きいことを語りましたが、キリストに於ては、彼自身が神として来り給うた故

に、其の使命に勝れる事を我らは知るのであります。罪人なる人は罪人なる他の人を救う力がありませんが、キリストは神で在り給う故、人を罪より救い給う事が出来ました。それ故キリストは、真の救主であつたのです。「汝の罪赦されたり」とは神なるキリストに於て初めて宣言される事の出来るものであります。かくキリストが世に来り給ひしは世の救われんためでありまして、キリストの他に救主はないのであります。「我によりては誰にても父の御許に列る者なし」とはその事を言われたものです。主は今や天の許に歸り給ひその代理者として我らの間に住み給うのが、神と御子より来り給ひし聖霊の神であります。我らの心の中に住み給うキリストの霊、天の父の霊、すなわち、聖霊との交りを保ち其の聖霊の神の御生命、御力、御慰め、御助けを受ける事が出来ます。此の聖霊の神の御助けを受けてのみ超自然の不思議な力が与えられて、人格は改変し、驚く可き変化が個人に、社会国家に世界に起つて来るのであります。此の三位一体の偉大な存在を信じ、其の生命の源なる神が父なる神であり子なる神であり聖霊である事を信じましょう。

證詞のページ

死刑囚の父

(四)

(前略)

「君の信仰の御導きを誰がして居りますか。私は全国の伝道旅行をした時、御地△△にも参りました。それで其処の牧師も知っておりまして、御希望でしたら御紹介してあげます。又教会の所在地は……市……町……番地です。」

私は全国伝道旅行の折、△△刑務所にて千八百名の方に講演しましたが、其の中の約二十五名程の方は死刑囚の方でした。其の講演をおき、下さった方の中に、信仰に志す方が多く起りました。一人は出獄され、今北海道の或開拓村で更生の生活を樂しんで居られます。

人生には種々な矛盾があります。でも主は十字架から敵を赦し、其の矛盾に勝ち給いました。登君よ、いよ／＼信仰を強くして勝利を得て下さい。君のお父さんは何処居られるか判らぬ由、取るに足らぬ者ながら、私をお父さんと思つて何でも打明けて下さい。では此の次まで、主の御慰めが豊かにあなたの上にありますよう。

中山 吾一

△△登君

私は字も文も極めて拙いけれども、真心から登君を愛して此の手紙を祈と共に送りました。そしてそれから二週間程して再び次の手紙が来ました。

「御恵を感謝致します。今日の此の私の嬉しさを何と書きましようか。私には只嬉しさのみです。先生御便り有難うございました。嬉しくて／＼夢を見ました。居るようです。暫くは御名を崇めて、泣くまいと力んでも後から／＼涙が流れて来て、どうする事も出来ません。私のこの気持ち、涙が流れて来て、どうする事も出来ません。私のこの気持ち、涙が流れて来て、どうする事も出来ません。私のこの気持ち、涙が流れて来て、どうする事も出来ません。」

「御恵を感謝致します。今日の此の私の嬉しさを何と書きましようか。私には只嬉しさのみです。先生御便り有難うございました。嬉しくて／＼夢を見ました。居るようです。暫くは御名を崇めて、泣くまいと力んでも後から／＼涙が流れて来て、どうする事も出来ません。私のこの気持ち、涙が流れて来て、どうする事も出来ません。私のこの気持ち、涙が流れて来て、どうする事も出来ません。」

「御恵を感謝致します。今日の此の私の嬉しさを何と書きましようか。私には只嬉しさのみです。先生御便り有難うございました。嬉しくて／＼夢を見ました。居るようです。暫くは御名を崇めて、泣くまいと力んでも後から／＼涙が流れて来て、どうする事も出来ません。私のこの気持ち、涙が流れて来て、どうする事も出来ません。私のこの気持ち、涙が流れて来て、どうする事も出来ません。」

大いなる御恵と摂理により耐え今日に至りましたが今では自分には恵まれた死刑囚だと朝に夕に感謝して居ります。此処には死刑囚が十人居ります。私が此の世的に一番苦しいのですが、私は此の逆境に少しの苦痛を感じません。常に御聖言と誰にも盗まれる心配のない尊い武器なる御祈りがありますから先生、感謝です。

只今晚の四時です。私の一番好きな時です。何の雑音もきこえません。此の静かな夜明に主を拝し、御聖言を学び、与えられた馳場にいそしむ事は何と申しましようか、只平安ですね。私は毎晩晩の三時四時起床が普通です。〇〇も秋になりますと寒さもきびしくなりますが神の愛につゝまれて、不自由ではありませんが何の苦痛もありません。夕には又晩の祈を致します。一日の終りに御祈をする時の喜びは此の手紙に書き表わす事の出来ないものです。主を信ずる事が如何に大切か。又私の働きがまだ／＼足らぬ事を夜の祈の時に教えられます。同囚を見て躓いてはならぬと、心に念じつつも、物質的に満され通しの同囚達を見る時、私の心にサタンが働きます。でもその度に御聖言により、又私と交わる愛する兄弟の祈により、それに耐え忍んで居ります。其の度に強

くせられ、私は召される迄同囚達を愛する事が私の馳場と考えて居ります。一時は私が純福音を信ずるが故に、教会にある同囚達から罵られ、迫害を受けましたが、神様の御憐憫により耐えて来ました。先生、私には日、見えるもの、迫害も多いです。キリストを信ずる故に此の虫獣にも劣る私をおぼえて御祈り下さい。切に御願ひ致します。

先生の御たづねになりました事。私は昭和六年十一月十八日生れです。今年の誕生日が来ると、二十五才になります。生れは△△△△町△△△番地です。父の名も顔も知りません。母は私を生んだ頃まで、今で言えば専売公社に勤めて、居たそうです。私の母の顔を知る頃には日本の悪名高い芸者になつて居りました。私は生活には何も不足はありませんでした。悲しい事に母の愛を知らず、祖母の手に育てられました。家は、祖母と母と女中と私の四人でしたが、私の生立を或る事から知つた頃から、母は或る人の二号になり、私は祖母と二人で暮し祖母は老人なのに、私のため働き、その疲労が原因で召されましたがそれ以来、祖母の弟に育てられました。私生児故に自分の子供と差別され、馬や牛と同じ生活でした。年若い私の心は

母に對し、世に對し反逆心で、胸一ぱいでした。そのため終戦後一人で耐えられず、学校も退学し、母恋しさのため一時母の家に住みましたが、母は心に思うやさしい母でなく、他人よりも冷たい母でした。私の心を誰が知るものかと犬を連れて公園を散歩したり、一人で港にゆき夜のふけるのも忘れ、父母の愛のほしさに泣いた事も度々でした。母の主人が私の心を知つてか、一時私の家の舟に來ました。その折沖繩にも渡りました。でも昭和二十五年の台風のため、船は沈み、内地に帰つて來ましたが其の後、悲しい事に、女の味を知るようになり、心の悲しさを忘れようとして、多くの女と交り墮落への道が始まつたのです。詳しい事は便箋十数枚になると思いますから船便で御知らせ致します。

先生が父と信じなさいと言われましたが今日までの私の歩みを先生に伝える私の心は先生に判つていたゞけると思ひます。二十五才になつて始めて父と言ふ言葉を口にする私は、まだまだ多くの私生児より倅です。又その上にキリストを信ずる事は何と言つても大感謝です。私の母は現在どうして居るか判りません。私の肉につらなるものは此の世に一人も居ません。大分センチメンタルになりました。

寄書

「二人の礼拝者」

遠山 本三

常に神に感謝し、週に二回断食し、凡て獲るものの十分の一を献げ、不義姦淫せず(ルカ一八の九一四)と言えば、此のバリサイ人は此の世的に言えは模範的信者であります。一方、税吏は不当税金を取り上げた

バリサイ人は己の罪の赦を得る必要がなく、己の善行に対し受けをよくし、神よりの寵愛を受けん為でありましたならば、彼の礼拝は、私利私慾の礼拝であります。お前は私に近よるのではない。私はお前より潔いのだから、と言う態度は、真の礼拝者の態度ではありません。(イザヤ書六の五)

「神よ、私の如き罪人を憐み給へ」と懺悔の祈をしました。バリサイ人は己の品性を税吏の品性に照して評価し自己満足然かも、自己の善行を吹聴して神よりおほめの御言葉を戴こうと思つたのであります。世間一般誰でも自己を義と観する人は必ず他の人を賤めるのであります。此のバリサイ人も己を高うするため税吏を卑めたので、彼はしなくてもいゝ自己の義を評価するから、他人を非難せずには居られなかつたのであります。故に彼は神との交りをつぶすも出来ず、何一つ神よりの祝福にあづかる事なく空しく家に帰つたのであります。

さて一方税吏は、自分は祈を献げる価値なく、彼より離れて遙かに立ちて天を仰ぎ見ず、深い悲しみと、自己嫌悪の中に、胸を打ち、バリサイ人からも、神からも祝福を受ける何等の価値なき、特権なき者たる事を感じつゝ悔悟のあまり「神よ罪人なる我を憐み給へ」と祈つたのであります。此の場合、彼は決して自分を他と比較しないで罪を認めて慄きつゝ、彼の希う事は只罪の赦と平安であつて其の求むるところは只、神の憐憫でありました。彼はバリサイ人よりも義とせられて家に帰つた。即ち大なる祝福を与えられて身も心も晴々として、歡喜にあふれて家に帰つたのであります。

「基督教と罪」

野口 俊次

キリスト教程、罪をやましかう言う宗教は他にはない。第一我々の父なる神を崇めな

第二は世界の平和、国家の平和、家庭の平和は私共人間に負わされた使命であると信ずる。それにも拘らず、平和の君として天より降りしキリストを信ぜず「御国を来らせ給へ」と祈り得ないのは罪である。

第三は、神は唯一であり救主なるキリストも御一人である。それ故に世の人の信じて御頼みする真の宗教も一つである可きは明々白々な事実である。故に何れの宗教も同じだ、などと言う事は罪である。

神の聖言に反して故意に救主を信ぜず、非キリスト教的な生活で世渡りする人の運命は神の聖言によると、地獄行きである。之れは世の始めより定められたる法則である。

それ故に、今日と言う今日、此の大切な時に悔改めて、キリストに來り、自ら救の恵にあづかり、同時に家庭の平和、国家の平和、世界の平和のために残る人生の長短にかかわらず、献身あらん事を祈りかつおすゝめ致す次第であります。

通信の中より

拝啓、愈々御清栄何よりと存じます。山根司祭もトロントの一年の修学を終りバンクーバーの御仕事に従事しています事も今後の仕事に大きな準備となる事と存じ感謝しています。

此度は貴著「靈の糧」甲村氏を通して本教区全聖職に御贈与賜わり有難く存じます。ユツクリ拝見致したく存じます。取敢えず御礼まで 敬具 大阪教区主教 柳原貞次郎

貴著「靈の糧」御寄贈賜わり有難く御礼申し上げます。目下教区社会部によつて各聖職に配布中であります。 東京教区社会局 司祭 青木毅三

大齊以来、息つく暇もないと言えば大げさですが多忙で失礼しました。御嬢さまの御結婚を兄上真司祭が司式なされた由、心から御喜び申し上げます(中略) 柳井久吉氏夫妻は思いの外御元気で、三日後には御夫婦で受洗される運びとなりました。常に中山先生によつて導かれた事を感謝して居られますので此の喜びを分つていたゞきたいと存じます。(後略) 七月九日 トロントにて 司祭 今井 献

### 何故基督を

#### 信ずべきか (四)

私共は世の誘惑に打勝ち、聖く義しく人生を過すために基督を信じなければなりません。

私共は弱い者で一度決心してクリスチャンとなりましても、最後まで、立派な、生涯を過すことは仲々困難であります。種々な誘惑も起つて来ます。そのため、教会を遠ざかり、祈りを怠り、聖書も読まず、信仰の墮落をしやすいためです。斯る時に必要なものは一心不乱に基督によりすがり、基督に御援けを求めることでもあります。キリストは神で在し給いますと共に人で居給いましたから私共の弱さも、失敗も欠点も凡て御存じで、何とかして授けてやりたいと思つて居て下さるのであります。

「我らの大祭司は我らの弱きを思いやる事能はぬ者にあらざるを思ひ外にして凡ての事、我らと等しく試みられ給へり、この故に我らは憐憫を受けんがため、又機に合ふ助を得んがために、憚らずして恵の座に来るべし」と聖書にある通りであります。我我は時には人世の重荷に耐えかねて倒れそうになります。一難去りて一難来るで、人生は苦難の連続とも言えます。然

し神は愛ですから其の都度必ず一筋の道を開いて私共を助け給うのであります。「神は真実なれば汝らを耐へ忍ぶこと能はぬほどの試練にあわせ給はず、彼らが試練を耐へ忍ぶことを得んために、之と共にのがるべき途を備へ給はん」と聖書にありま

す様に、神様と共に、負いますならば、人生の苦難、我らに与えられて居る各自の十字架もこれを負う事が出来るのであります。病氣も、失業も、友の誤解も、家庭の問題も、凡て苦しいものであります。然し神と共にある者には絶望はありません。私の今までも、色々な出来事がありました。そうして今度はもう駄目かも知れぬ、再び立ち上る事は出来ないと思つた事も度々ありましたが、然し神は其の度に道を開いて再起せしめ、今日に至らせて下さりました。此の力は神の外、誰からも与えられたものではありません。

マーテン・ルーテルは唯一人で殆んど全世界を相手に宗教改革の運動に従事しました。あのウォルムスの大会に呼出された時の如き、人々は、彼は多分、焼殺されるであろうと想像した程でしたが「神は我が城なる難題の時のいと近き助けなり」(聖歌一五三番)と言う歌を歌いつゝ、大胆に進んで、不思議に危い生命を拾ひ、あの大事業を

成遂げました。

私共は時々失敗しても、又勇気を振り起して神を頼り前進しなければなりません。主は常に勝利の王であります。此の主の御力をいたゞいて、人生の凡ての苦難を耐えるために、キリストを信じましょう。「世に勝つ者は誰ぞ、キリストを神の子と信ずるものにあらずや」。

### 祈り

朝の空気の清き時

其の日の仕事に出ぬ前

世の事に思ひの乱れぬ時

御聖書読むうれしき

小鳥のみ既に目をさまし

神の偉大を讃美するに

などて我祈らずにある可き

我が心に、我が心に!

### 文書伝道部より

今回中山吾一司祭著説教集「霊の糧」は日本全国の聖公会主教並に聖職各位に贈呈されました。又「日本が救はれるために」は聖公会教務院、並に教区関係諸委員全部八十三名に贈呈され、ぼつ／＼感謝状が来て居ますがその中には大阪の三和銀行総裁、渡辺忠雄氏や伊東市の宮沢寿氏等もあります。尚此の

次は日本全国聖公会関係三十五の諸学校の図書館、並に百十五の幼稚園四十七の社会事業団体その他に御寄贈申し上げたく存じて居ります。右の費用は全部中山牧師個人の献金でなされて居るものであります。

尚同師の新著説教集「聖なる愛」が近く出版されるようになつて居ります。尚、「米國ハワイ伝道の旅」の原稿は已に脱稿し、目下中山真司祭著「カナダ日系人聖公会五十年史」の翻訳執筆中です。

尚「聖愛」並に出版部に御献金下さいました左の方々殊に、手紙をもつて御激励下さいました方々に厚く御礼申し上げます。

- (略敬語乞御赦)
- 島崎勇次、布田惣一、野口俊次
  - (米國) 穴沢忠次 (米國) 福本虎蔵、石井テル、松本勝 (米國) 小笠原夫人、鬼崎富士太郎、遠藤長治、片山悟郎、祈国七牧師 (米國) 村上勝頼、佐野繁一、熊谷万喜男、日高クニ、戸栗時三、清水庄太郎、岩淵喜代助、山上正太郎、林鶴松、竹田房五郎、内田武、山下系枝、遠山本三、野口俊次、井上滋次郎、土居はまよ、フランク田村 (米國) 無名氏、渡口ツル (日本) 岡島松太郎司祭、寺尾平四郎司祭 (日本) 岡野利治司祭

### 牧師の便り

遠方近方の愛する兄弟姉妹、主の御恩寵の許に皆様御変りなく御活動の事と存じ上げます。当地は目下盛夏、見渡す限りの大平原、空には雲一つない晴天昼間は八、九十度にもものほり

ます、でも夜間ははずつと涼しくなつて眠れない夜など一日もありません。からりと乾燥した空気が、全く世界一健康と言われる此の地に生活出来る事は何たる感謝でしょう。私は田舎牧師の生活をコツ／＼と楽しくやつて居ます。珍しい日白人の合同会衆で、皆親切な方ばかりです。嬉しい事は今までに祈りつゝ伝道した方々が速く東部や西部に再移動され、其処で洗礼を受け主の群に加わられるのです。家庭の事を言いますと、長男は二月二十五日に司祭按手礼を受けキヤルガリー市聖バルナバ教会の副牧師、AYPAのチャプレン、教区教育部委員、レデオ日曜学校放送主任で毎日曜、児童説教を放送して居ます。娘は春結婚してバンクーパーで生活して居ます。私は、七月二十二日から一ヶ月の休暇に約千五百哩のBC州各地の訪問伝道に出かけます。お互に神に凡てを委ね、最善を尽して毎日の使命を果しましょう。御祝福豊ならん事を祈りつゝ。

(中山)

# 聖愛

第65号

発行所

Rev. G.G. NAKAYAMA  
P. O. Box 461  
COALDALE,  
ALBERTA,  
CANADA  
カナダ日系人聖公会

## 苦難に耐える道

司祭 中山 吾 一

「汝ら世に在りては患難あり、されど難々しかれ、我すでに世に勝てり」

(ヨハネ伝一六の三三)

人生には種々な苦難が次から次へとやつて来ます。七難去りて八難来るとか、人生は苦難の連続と言う事も出来ましょう。

人は表面では何事も無いように装つて居ますが一度其の人の友となり、心の中に入つて行きますと種類こそ異りますが皆何事かに苦しんで居ります。病氣、経済的苦難、家庭問題、親子の問題、社会的誤解其の他数限りがありませぬ。斯うした苦難に對して、我らはどう言う態度をとつたらいいのでしょうか。

### 一、苦難に対する態度

① 否定論——苦難なんてあるものでない。無いものを有ると思つて居るのが迷いである、無いと悟れば苦難は解決すると

言う人があります。心理学的に或程度までは、苦難を軽んずる事も出来ましょう。然し全然否定する事は困難であります。例えば病人に、「あなたの病氣は無いのです」と言つても現に身体が痛んで居ると事実を否定出来ぬと同じ事です。

② 逃避論——苦しみを否定出来ないから、出来るだけ、之から逃れようとする人があります。此のうるさい、煩わしい社会に住んで居るから苦しいのだ人の居ない世界で生活しよう、と修道院のような処に入つたり山の中で仙人のような生活をして見ようと試みて、それは不可能であります。何故なら、苦難は多く、心の問題で、自分の心の中に原因があるのですから苦難から逃れようとしても、それは出来ない事でありませぬ。

③ 忘却論——或る人は、苦しみを忘れようと思つて、否定も逃避も駄目だから、一時的にでも苦しみを忘れようとするのが現代人の行き方です。享樂主義が其処から生れて来ます。物見遊山に、飲食睡酒によつて、一時的にでも苦しみを忘れようと思つて、酔がさめると再び苦しみが甦つて来るように、苦難を忘れようとしても駄目です。では、基督者は苦難に對して如何なる態度をとる可きでしょうか。

### 二、苦難と基督者態度

基督者は、苦難を否定しません。主は「汝ら世に在りて患難あり」と言われました。又、苦難から逃れようとも、それを忘れようとも致しません。却つて苦難に打勝つて行こうと致します。

斯る態度にとつて大切な事が二つあると思ひます。一つは、苦難は一時的で、永久に続くものでないと言ひ見定めをすること、もう一つは、神様が私共に居て下さる。自分一人でない、神も偕に苦しんで居て下さる、そうして、勝利を与えようとして居て下さると言う信念であります。

### ① 苦難の一時的性——

「苦難の一時的性——」 ずっと以前、戦前に私はよく病院訪問をしました。或る時、パンク1バリのサナトリウム、東洋人病院に、十八、九の娘さんを見舞ました。何とかして神様を知

らせたいと思つて居ますが、「まあ煩さい人がやつて来た」と言う表情で私を迎えます。でも根氣よく訪問して居ますと、或る日、ニコニコして私を迎え、「昨夜私はイエス様に会いました。寝て居る私を起し、聖書を読めと言われるので開けて見ると、ロマ書八章十八節でした。「われ思ふに、今の時の苦難はわれらの上に覆はれんとする榮光にくらぶるに足らず」とは一体、何の意味でしょう」との事に、私はパウロが迫害の中にあるロマの信者を励ますために此の手紙を送つた事から、更に個人的に、今肺病で苦しんで居られるが、それは一時的で、何時か癒されて、幸福な時が来ると信じると説明しました。果せるかな此の姉妹は完全に癒され今はトロントで楽しい結婚生活をして居られます。若し今大きな苦難にある人があつたら、其の苦難は決して永久に続かない。又幸福が必ず来ると信じて其の苦難に耐えて下さい。

### ② 神と共に苦しむ——

苦難に耐える最善の道は神と共に在る事でありませぬ。主は十字架におかゝりになります前の晩に、「汝ら我をひとり遺すとき到来ん、否すでに到れり。然れど、我ひとり居るにあらず、我が父われと共に在すなり」(ヨハネ伝一六の三三)と言われました。

主は、ゲッセマネの園に於て血の汗を流しつゝ祈つて居られる時も、「父よ御旨ならば此の杯を我より取去り給へ、されど我が心にあらず御旨をなさせ給へ」と祈られ、十字架上で、御肉を割き、御血を流して、其の御苦しみが絶頂に達した時「エロイ、エロイ、ラマ、サバクタニ」我が神、我が神、何ぞ我を見ずて給ひし」と叫んで居られます。肉体をもたれた主は私共が苦しむ同じ苦しみを十字架の上になさいました。それですから主は私共を苦難から、罪から御救いになる事が出来るのです。此の時、此の御苦しみの時「我が神、我が神」と叫んで居られる主の御姿こそ我らが苦難に打勝つ勝利の秘訣ではないでしょうか。如何なる時にも神の愛の御手から離れない心、神と共に在すと言ひ信念、これによつて苦難に耐えてゆきたく存じます。父にこらしめられる幼児が、むち打たれて痛い手で、尚「パパン」と言つて父の手にすがりついてゆく此の心裡、此処に勝利があるのです。

苦難は一時的で永続するものではないと思ひます。苦難の後には又必ず喜びがあります。神と共に在る者には絶望がありません。「神我と共に在し給ふなり」との信念で凡ての苦難に打勝つて勝利を得ましょう。



B C州二十一カ所

伝道旅行を了えて

「汝ら時を得るも、得ざるも福音を宣伝へよ」とは聖書の命ずる所、たとえ夏中休暇と言えども福音を伝えねばならぬと、例年の事ながら、今年も伝道旅行をする事にした。目ざす地方は、B C州の各地。

① スローカン湖畔各地

何と言つても戦時中、三年間収容されて生活した、スローカン地方は私にとつては懐しい。時は七月二十二日、夜半の三時過ぎコールデルを出発したグレイハンド・パスは、ネルソンで一休みした後午後五時半スローカン市に私を運んでくれた。B C州の美しい山河、湖水凡てが一大公園のようである。戦時中七千人も同胞の居たレモンク

リック、ポプオフ、ベイハアームも今は雑草の繁る荒廢の跡、「夏草や」「武士者」でなく「同胞友の」「夢の跡」で、感慨無量、唯大きな変化はネルソンから、スローカンに向けて殆んど見違えるようにアスファルトの広い路が出来ていることである。

スローカンのバス停車場には木下善市、山本、阿部両姉始めパーカー氏夫妻、ミス・ライプ其の他の方が出迎えて居て下さる。其の夜はパーカー氏宅で一泊婦人会館で日白人のために講演と映画を上映、歓迎の茶話会もしていた。翌日町会議員で市長代理も勤められる松林平太郎兄が司会して下さる。実になごやかな一時、此の地の殆んど全ての同胞が集つて下さつた。

翌日、山本、阿部両家の御馳走になり、日白人知人を訪問、戦時中隣り同志であつた、ハワード氏が去年心臓病で急逝されて居たのは淋しい。裏の山の涯に登つて平和祈禱を共にした昔を偲ぶ。其の時の私の友、平野杉松兄も今は亡き人、何となく淋しい。

其の夕刻、パーカー氏宅で知り合いになつた、サンタ。オガスノと言うイタリア人の御好意でナカスプまで、自動車にのせてもらう。

② ナカスプ 有名なコロンビヤ大河の上流、アロー湖畔にあるナカスプは、景色のいゝ田舎町である。此処には、矢野、山田、上田、井上、大林、柳沢、星崎、西崎、吉田、河原、西田、夏原等の同胞が居られて、レストラントやプレス屋をして居られる方もあるが、多くはソーミルに働いて居られる。幸に予定より早く此処に着いたので、大林房次郎兄と息子さんの厚意で、殆んど凡ての同胞並に白人司祭宅を訪

問、其の夕矢野勇兄宅で集会、宿は夏原喜三郎兄姉宅で大変御世話になる。アルバタで信者になられた、西田武志兄姉と、御子さんに再会、実にうれしかつた。

③ ニューデンバー 七月二十四日、再びオガスタノ氏の自動車で、ニューデンバーに着く。先ず我ら日系人聖公会の元者、山本本三兄姉宅に着く。兩人共以前に増して元氣になつて居られて嬉しい。此処にはまだ可成の同胞が住んで居れるが、おにも老人と、身体の弱い人々である。私は病者訪問や、淋しい人を慰問するのが使命と考へて居るので養老院を始め多くの知友を一軒々々訪問した。其の夜日本人ホールで催された集会には、広川、桜田、氏家、山崎、齋藤、林とし子、遠藤、竹中、堀田、松下、山下、中島、中筋、小林、内山、沢田、岡、四隅、林かつ子、井上、片岡、糸永、深井江、小林次郎、井田、ミセス小林、小阪陽太郎、ミセス小阪、森、杉本、ミセス竹中、佐藤、堀内、大倉、ミセス大倉、遠山、ミセス遠山、其の他の方々が集つて下さつた。日本人会と聖公会共催で、遠山本三兄が司会して下さる。会后、中筋うま姉宅で聖公会員の歓迎会をして下さる。此の日は可成暑い日であつた。

④ ミッドウエー 何かしら一日ではニューデンバーに心残りがしてならなかつたが早朝バスの人となる。スローカンに着けば、山本姉、阿部姉、パーカー夫婦が再び来て居て下さる。南スローカンでバスを乗替えて一路ミッドウエーに向う。途中の景色の佳い事!!! グランドフォークスで三十分停車中に中谷姉を訪れる。グリーンウッドを通る時、心からの友、渡辺順次兄姉に会いたかつたが其れが出来ず残念であつた。夕刻、ミッドウエーに着く。角野姉に迎えられ、晚餐は私の教える、鬼塚清治君宅でいたゞく。二十数年前、フエヤヒュー校で、実に可愛い幼年であつた清治君が今は此処で無くてならぬソーミルのデレクター、何くれとなく尽されるので「村長さん」と呼ばれて居ると言う。同胞二世の大成功者の一人に数えられる人物でも幼き日の純情其のものゝ如き彼の態度が嬉しい。其の夜は角野岩作兄司会して下され、合同教会で集会、豊田、大井、ミ

セス大井、宇野、曾川、長谷川、熊川、角野本太、ミセス角野、山崎、ミセス山崎、竹田、ミセス竹田、高橋、上高地、松井、ミセス松井、鬼塚、ミセス鬼塚等の兄姉や御子さん、御孫さんが集つて下さる。会后歓迎茶話会をして下され実に楽しい一夜であつた。

⑤ サンマールランド 角野本太兄宅で一泊させていたゞいた私は、次の日再びクレイハンドパスで、サンマールランドに向う。米国との境、オソヨの景勝、実に立派だ。コロンビヤ・ハイウエー、ハワイのヌアヌバリ、ロ市外の天文台等の眺めにもおとらぬ、良い眺めである。下に降りれば豊かな果樹園、今年もアップルは豊作らしい。ペンテクトンでバスを乗替えて、美しい、オカナガン湖畔を北上、サンマールランドに来る。

「中山さん早く此処に降りなさい」 そう言つて私を呼んで下さつたのが親友の山辺清兄、西サンマールランド行きになつて居るのだがと思ひながら下車する。何でも多田さんと交渉して一つ手前まで降された訳、一刻も早く、会いたい。それ程親友と言うものは有難い。昼食后、共に経営して居られる、青木二郎兄姉の果樹園に行く。今、アップリコ

ツトの摘盛り、猫の手も欲しい  
 と言う所。一箱、二箱摘んであ  
 げる。否、摘んで食べる時間が  
 多い位、三十四年以前、私は此  
 処の農園に夏休に働いた事があ  
 った。其の時も青木、山辺両兄  
 は、共同でやつて居られた。同  
 じ友愛で今日も共に仕事をし  
 居られる。此の美しい友情と協  
 力に心から頭が下る。山辺兄姉  
 の長男、リチャード君は牧師に  
 なり神学校の教授をして居られ  
 る。神の御名を讃美したい。

夕刻、集会前、墓地に、恩人、  
 多田篤太郎氏の霊を慰む。多田  
 氏は私の苦学時代五年間毎夏農  
 園で働かせていた恩のある  
 方である。共に讃美歌を歌つ  
 た昔を偲び、此の墓地にある  
 凡ての同胞の冥福を祈る。

其の夜日本人ホールで、山辺  
 兄司会にて講演、来会者は青木  
 兄姉、山辺兄姉、今吉兄姉、内  
 田兄姉、吉屋兄姉、加藤兄、上  
 釜姉、田多姉其の他で、会後茶  
 話をして下さる。此処は私に  
 とつては第二の故郷とも言う  
 所、凡てが懐しい。三十年前、  
 植えたばかりの小さかった樹が  
 今は一面に繁りて、枝も折れむ  
 ばかりに実がなつて居る。その  
 ように当時生れても居なかつた  
 今吉克巳君はバプテスト教会の  
 牧師としてネルソンにあり、内  
 田明君は宣教師として日本に行  
 つて居る。実にサンマールランド

は靈的に恵まれた土地である。  
 山辺清兄宅で一泊させていた  
 とき、翌日バンクーバーに向  
 う。

⑥ 恩師の子息を迎う

サンマールランドから、バンク  
 ーバーまでは、有名な、マンニ  
 ング州立大公園があつて、戦時  
 中同胞が働いた。ホープ、プリ  
 ンストン、ハイウエーの開通に  
 より自動車旅行も大変楽しいも  
 のになつた。其の中間の休憩所  
 がプリンストンである。バスが  
 此処に着くと、此処から十二哩  
 離れた処にソーミルを経営して  
 居られる成家兄、石川兄姉、岡  
 田姉が四人の御子さん達をつれ  
 て私に会うために、わざわざ来  
 て居て下さつた。三十分の停車  
 中をカヒーショップにつれて行  
 つて下され、楽しく語らつた。

何と言う大きな御親切である  
 う。私は斯く美しい友情の心根  
 に心の中で感泣して、再びバス  
 の人となる。

フレザー湖畔の美しい眺め  
 に、すつかり旅愁をなくさめら  
 れて夕刻七時半、私は懐しいバ  
 ンクーバーに着いた。此の春結  
 婚した私共の娘の宅に着いて、  
 夕食もそこへにすませて、取  
 急ぎシーアイランドの飛行場に  
 急いだ。昨年来の努力が報いら  
 れて大学生として呼寄せた、中  
 根朝雄君が今夜のCPAで日本

から飛来されるのを迎えるため  
 である。朝雄君は、私が四十年  
 前御世話になつた、京都の両洋  
 中学（今は両洋学園と言つて幼  
 稚園、小学校、中学、高校を有  
 する学園）の恩師、中根正親先  
 生の末子である。私のカナダ移  
 民問題提唱が、大阪毎日に掲載  
 されたのが先生の目にとまつ  
 て、それが因をなし、朝雄君を  
 私が親代りとなり留學生として  
 呼寄せた事になつた訳である。

「朝雄さん!!」

「先生!!」

私達二人は、人目もはぶから  
 ず握手したまゝ、声も出ない。  
 純情其のものの希望に燃ゆる恩  
 師の息子、私は又一人ふえた  
 責任、「神よ御力もて此の大任  
 を果させ給え」と祈りつゝ其  
 の一夜を過した。

⑦ バンクーバーにて

日本の中根校長に朝雄さんの  
 無事来着を電報で知らせて婿の  
 小川宅に着いたのが夜半一時過  
 ぎ。でも日曜の朝は八時の聖餐  
 式にあずかるために、聖セビア  
 ー聖公会に出席する。若い小川  
 夫婦も眠い目をこすりながらつ  
 いて来る。十時には、日系人聖  
 公会にて説教「苦難と人生」に  
 ついて語る。滞晩中の山根真夫  
 司祭が司式して下さる。旧知の  
 信者多数に再会、実に嬉しかつ  
 た。中根君も共に招かれて、親  
 切な村上真吾兄宅で、昼食の御

馳走になり、小川の自動車でリ  
 ッチモンド、ステブストン、新  
 西院の知友の訪問に出かける。  
 吉原元一郎兄姉宅では故注連太  
 郎兄の霊を慰め、平田、鈴木、  
 前川、岡本、前田、倉本、蒲  
 地、及川諸兄姉を訪問、病中に  
 ある友を慰め、鈴木宇之吉兄姉  
 宅では最近一人息子を亡くされ  
 たので、御心中を察し涙と共に  
 彼の靈の上に神の御祝福を祈つ  
 た。天気は、照つたり降つたり  
 定まりがない。人生も斯くの如  
 きか。曇る日、照る時、只、神  
 の御手に御委せする外に道がな  
 い。

一日中動き廻つた疲れた心と  
 魂を我ら一行は、なつかしい聖  
 シエームス教会に運ぶ。戦前此  
 の教会の主任で、日本人のため  
 にも種々御尽し下さつた、フア  
 ーザー・クーパー司祭が英国か  
 ら来られて御説教があるので是  
 非にと出席した。聖堂は超満  
 員、聖者の如き老司祭の熱心な  
 説教に、一同、只感激そのもの  
 の、斯くして七月二十八日の忙  
 しい日曜のプログラムを無事に  
 終る。

⑧ フレザー河畔の伝道

新西院のパツロ橋を渡つて、  
 フレザー河に沿つて幾つかの漁  
 村があるが、其の一つはサンバ  
 リーである。此処に、津村象太  
 郎、肥後ユキ、肥後義行、鈴木  
 八郎、河野其の他の兄姉が居ら

れる。これらの信者や求道者の  
 ために、聖公会は日曜学校を起  
 し、定期の礼拝を行つて居るの  
 で是非訪問する責任を感じ、中  
 根君と共に小川の自動車で訪問  
 する。肥後姉宅で集会、今は西  
 海岸に出漁中の息子さん達に会  
 えぬのが残念、でも其の夜は空  
 いて居る室のために其処に泊め  
 てもらふ。船大工をして居られ  
 る津村兄姉、河野兄姉に大変御  
 世話になる。フレザー河の鮭漁  
 の概況を見、又其の新鮮な魚の  
 御馳走になつて中根君も大変喜  
 ぶ。

「昨夜集会に出席して御祈り  
 したり神様の御話をきいてすつ  
 かりよく眠つたためか、今朝は  
 大変鮭がよくとれて一網で三十  
 六尾もとれました」とは津村兄  
 の話。二疋大きな魚を土産にい  
 たゞく。肥後さんには手製のジ  
 ャムを、全く皆さんの親切は真  
 心と共に御礼の言葉もない。  
 翌日、七月三十日には、やは  
 り、フレザー河畔の農園地、オ  
 ルタグローブに出張する。此処  
 にはアルパタで救われ信者とな  
 られた中島勝一兄姉一家や三十  
 年来の知友、市川治夫兄姉が居  
 られる。市川姉と其の実弟、三  
 男君は私の教え子でもある。そ  
 れで此処に来るのは実に楽しみ  
 である。駅まで迎えに来て居て  
 下さつた、中島兄と共に、中島  
 兄姉の客となる、中根君も同道

する。

⑨ 驚く可き神の御恵み

神の愛は、天地に満ちて自然界を通して我らは其の御恵みを見る事が出来る。豊稔な、フルザー河畔では、農産物は大抵何でも出来るようである。殊に、日系人は苺を主として耕作して居られるが今年は大変な豊作であつたとの事である。

然し、私の言いた事は、人の心に及んで居る神の大きな御恵みである。此処には、二階堂光、八ヶ城武熊、横山常吉、加藤政太郎、横山明、井上、其の他二十家族程の同胞が居られる。そうして約十家族程は基督者だそうである。

殊に私の嬉しかつた事は若い人々が教会に出席して居られる事で、田中三男君など毎日曜日聖書と祈禱書をもつて近くの白人聖公会に出席して居られる由である。

中島勝一兄姉宅で集会をさせていたとき、引続き歓迎の茶話会をしていたが、快談に時の経つのを忘れ、皆さんが帰途につかれたのははるかに夜半を過ぎて居た。

私は大都会の伝道も大切だと思ふが、斯る静かな、漁村や農村の純朴な方々に福音を伝えることの必要を痛感するものである。

(以下次号に続く)

### 死刑囚の父

(前承) 私の心は主が一人だけ知り給う。私には主なくして何者もありません。キリストを離れては一秒も平安を得られませぬ。幸に神は沖繩の△△園の、△△信枝さんや○△看護婦を通して私の信仰を強めて下さいました。改心して洗礼も受けました。真の救を経験しました。

たが真の救を経験しました。は、自殺寸前に活ける基督を拝した時でした。私は東大総長、矢内原先生の雑誌「嘉信」で大いに教えられて居ります。△△看護婦とも遠く離れて居ますから一年に一度位しか再会しませぬ。それで現在私には、一人の牧師も教会もありません。私を心から愛して下さる牧師は先生が始めてです。今後も先生に御迷惑かけると思いますが、此の愚かな者を御導き下さい。先生は近く全国に交る兄弟姉妹のグループを作りたく願つて居ります。そのため昨年かから祈つて来しました。私のする事ですから大した事は出来ませんが、信仰の証しのノートを作り廻す計画です。私自身の信仰を少しでも同じ境遇にある人々に又病床に在る人達に伝えようと祈つて居ります。私は最後の日まで、主の御心に励みます。

十人の癩病人の中の一人(ルカ一七の一三)が主の御前に帰

つたように、私は救われたものとしての務めがしたいのです。世にはまだ、迷つた多くの人が居ます。先生お互に頑張りますよ(エペソ六の一〇―一八) 今日之れで失礼します。では此の次まで、寒さに向います折、先生、呉々も御自愛下さい。

△△昇

中山吾一先生

私は第二信をうけ取つて益々昇君が自分の子のような気がしてならなかつた。彼は丁度、私の実子、テモチ、真(カナダ聖公会の司祭として白人教会に奉仕中)と同年令で十一月十八日生れと云うから、私の誕生日十一月十六日に近い。何だか深い愛が私の心に起つて、再び手紙を書いて彼を慰めてあげた。そして、やがて、彼から、第三信が届いた。

「ハレルヤ!」御恵みの中に主に在る御父様に御便り書けませぬと感謝致します。二十五年度に始めて、御父さんと云う言葉が使え喜びは、特別です。私生児より神の子となり、今日は何よりも感謝すべき父を与えられ、私の喜びは、何と言つて表わしてよいか、其の言葉も思出し得ません。

感謝 録

牧師旅行中に左の方々から献金をいただきました。謹しんで感謝致します。パーカー氏(スローカン)西田武志(ナカサブ)大倉喜三郎、氏家フジ、山崎元枝、小坂陽太郎、桜田エイ、中島述吉、川口房吉、井田兄姉(ニューデンバー)角野本太兄(ミッドウェー)青木次郎兄、多田スガ姉(サンマランド)石川義衛兄(コールモント)平田伊平兄、鈴木もと姉(ステプストン)肥後義行、肥後ユキ、兄姉(サンパレー)村上勝頼兄、ベスト氏(ガチヂス)阿部クラ、中村朝吉、岩崎定男、山浦弘、上倉重夫兄姉(バンクバー)山崎次郎、里見竜治、貴家誠、下山吉之助、楠本楠太郎、立石留助、田中久夫、坂本哲雄、渡部松太郎、大石十次郎、森、浜仲兄姉(カムループス)小林伝兵衛兄(OKセンター)三輪生駒、矢倉幸利兄姉(パーノン)小川りん、岡田義夫、斎藤作一兄姉(サモンアーム)浦野末蔵、斎藤勝、飯本信一兄姉(マグナベイ)土屋竹次郎、土屋ジョーチ、藤本義男兄姉(ゴードン)坂本請太郎兄(リベルストック)外各地の集会に於て献金をいただきました。スローカン、ナカサブ、ニューデンバー、ミッドウェー、サンマロー

### ◎聖愛便り

当地は今年は珍らしい雨の少しい暑い夏で、更に珍らしい、佳き秋のようです。皆様御変わりありませんか。皆様の御援助により、聖愛も発行を続けることが出来まして感謝して居ります。本号は、「BC州伝道旅行記念号」としました。此の旅行記は次号にも続きます。

之れから此処の農家は文字通り農繁期となります。大平原の収穫、機械農業の壮観を一目皆様に御見せたいものです。それがすむといよ、クリスマスマスになります。聖愛のクリスマス号を出したいと思つて居ますが間に合いますかどうか。兎に角最善を尽します。では皆様御気謙よう。

(中山)

# 聖愛

第66号  
(クリスマス号)

発行所

Rev. G.V. NAKAYAMA  
P. O. Box 461  
COALDALE,  
ALBERTA.  
CANADA  
カナダ日系人聖公会

## 御聖誕の教訓

「クリスマス」それは何と言  
うなつかしい、嬉しい言葉であ  
ろうか。今日、全世界の人が、  
クリスマス、お目出度うと御挨拶  
をしながら嬉しく、目出度い  
のか。其の理由の二三を申し上げ  
たい。

第一は神が其の独子を世に与  
え給うたと言う事である。

「神は其の独子を賜ふ程に世  
を愛し給へり」とヨハネは記し  
て居るが、キリストの御降誕は  
神の愛の証明である。

私共はクリスマスになると、  
贈物をする。その心持には色々  
相違があろう。受けた御恩、御  
世話になった御礼、又は自分達  
よりも不幸な人への同情、憐み  
の心持等。

然し神が、イエス・キリスト  
を私共に御与えになつたのは、  
そんな簡単な意味ではない。そ  
れは人類を罪の苦しみより救わ  
んとの大御心からであつた。こ

れは全く神の聖愛の表現である

我らは愛してくる人、やさ  
しくして下さる方を愛する事が  
出来る。然し、我らを憎む人、  
恩を仇で返す人、反対する人を  
愛する事は困難なことである。

然るに神はそれをなし給うた。  
「神の愛我らに顕はれたり、  
神は其の生み給へる独子を世  
に遣はし我らをして彼により  
生命を得しめ給ふによる」

(ヨハネ一書四ノ九)  
と記されてあるように、キリス  
トによつて生命を受けることが  
出来ると言うのである。然らば  
如何にして生命をうける事が出  
来るかと言うと、キリストが我  
らの罪を贖うために世に來り、  
十字架上に死に給うた事によつ  
て新生命をうけるのである。此  
の点が有難いのである。

「されど、我らなほ罪人たり  
し時、キリスト我らのために  
死に給ひしによりて、神は我  
らに対する愛を顕し給へり」  
(ロマ書五の九)

キリストの御誕生は即ち十字  
架の御苦しみと御死を深く考え  
る時に初めて意味深いものであ

る。其処に我らは、神の最大の  
賜物を見る。それは、神御自身  
が我らの間に來り給うた事であ  
る。

第二に我らはクリスマスを通  
して主のたいなる謙遜を学ぶ。

「即ち彼は神の貌にて居給ひ  
しが、神と等しくある事を固  
く保たんとは思はず、反つて  
己れを空しうし、僕の貌をと  
りて人の如くなれり」  
(ピリビ書二の六―七)

主は天地の創造者、支配者、  
全智全能の神で在しながら(ヨ  
ハネ伝一章一節参照)人類を愛  
し給う故に、人の世に人の貌僕  
の貌をとつて降誕し給うたので  
ある。聖き靈なる神が肉體をも  
つて降誕し給うた。これを受肉  
降世(イーカーネーション)と  
言うのである。これは何と言う  
尊い事であろうか。全く己を空  
しうして此の世に來られたので  
ある。此の己を空しうしと訳し  
てあるギリシャの原語は、ケノ  
シス(Kenosis)と言う語で、  
全く自分と云うものを無くする  
意味である。此処に絶対の服従  
を見る我々もキリストの謙遜と  
服従に學んで己を空しうし、自  
我を殺すならば、其処に赦し合  
があり、真の平和がある筈であ  
る。キリストを平和の君と申し  
上げる原因と動機はここにあり  
のではなからうか。

第三に、クリスマスを通して、  
世の救いとたいなる神の犠牲を  
見る。

「既に人の状にて現れ、己を卑  
うして死に至るまで、十字架  
の死に至るまで従ひ給へり」  
(ピリビ書二の八)

クリスマスが我々個人々々の  
生命、罪、生活と如何なる関係  
があるかを今一度静かに考えて  
再献身をしたいものである。主  
が私どもを救い、今日の幸にあ  
ずからしめ給うたためには、十字  
架の犠牲があつた。血を流し、  
肉を割き給わねばならなかつ  
た。

日本が生んだ世界的偉人の一  
人は確に野口英世であるが、  
先生は毒蛇の血清療法を発見  
するために生命を堵して苦心  
研究され、そのため毒蛇のた  
めに左手を失い、薬品爆発の  
ため、美しい御顔は、見るも  
ぞつとする醜いものになられ  
たと云う事である。が此の先  
生の犠牲によつて多くの人の  
生命が救われたのである。  
私共はこのクリスマスに今一  
度主の十字架の犠牲と、其の死  
と聖愛を深く考えて、そのため  
にこそ、主は御誕生なされた事  
を想い、心から感謝したいもの  
である。

(遠方、近方の皆様の上に神の  
御祝福を祈りつつ)

## 新年の御挨拶

謹しんで新年の御喜びを申し  
上げます。

日頃は教務に忙殺され、御便  
も充分致しませんで失礼して居  
ります。何卒御海容下さい。年  
毎に多くなつて参ります親しき  
友の皆様が、楽しい新年を御迎  
えになりますよう心から御祈り  
致します。

何と申しましても人生に於て  
最も大切なものは信仰でありま  
す。主イエス・キリストの御救  
いにあずかつて居りませんなら  
ば、眞の生甲斐ある人生を過す  
事は出来ません。お互に新しい  
年と共に此の信仰生活に徹底し  
たく思います。

私共には解決しなければなら  
ぬ種々な問題がありますが其の  
根本は皆神への信仰があるか無  
いかの問題だと思ひます。枝葉  
にとらわれないうで根本問題によ  
つて解決したく存じます。永遠  
から見れば一年は実に短かく又  
永いものです。来る一カ年が如  
何なる運命を私共にもたらすか  
予想だに出来ません。只信仰に  
よつて言える事は神は愛である  
から、人が愛と眞実をもつて最  
善に生きる時、神は決して見す  
て給わないと言ふ事です。では  
皆様の上に來る新しい年に神の  
祝福豊に在りますよう。

### BC州伝道旅行記 (二)

#### 十一、バンクーバーにて

七月二十八日は日曜であつた。前後恩師の息子、中根朝雄君を日本から迎え、安着の電報を打つて床についたのは一時半頃であつた。でも早朝、私は弟等夫婦と聖セービー聖公会の聖餐式にあずかり、引続き、十時からの日本人聖公会にて御用に當つた。「苦難に耐える道」と題し説教した。来会者中には松本市十郎、村上真吾、坂本吉栄、六戸トク、難田、桑原、内藤恵、其の他の知友が来て居られ、山根真夫司祭が司会せられた。村上真吾兄弟の昼餐にあずかり、午後はステュートン、新西院の知友の訪問に出かけ、平田、鈴木、岡本、前田、吉原、前川、蒲地、及川諸家にて或は折り、共に泣き、共に喜んで半日を過す。夕刻帰晚、折柄、英国より来訪中のファザー・クーバーの説教を、聖ジェームス教会にきく、忙しい一日であつた。斯くしてバンクーバーに於て数日を過ぎたが一日として休む暇はなかつた。朝雄君のBC大学入学の手續、移民館の手續、山浦甲兄宅の記念会、個人の種々な家慰にての対談等全く寸暇がなかつた。六戸トク姉や若林金蔵兄姉に大変御世話になつた。

#### 十二、ガランチス訪問

私はあちこち旅行したが、日本の瀬戸内海、ノースウエストの海岸、ハワイ、加州モンレー等と相ならんでBC州海岸は世界的に有名な美しい処と思ふ。殊に其の内海の島々は皆美しい。其の島の一つソートスプリング島に岡野利幸、村上勝頼、尾本諸兄弟が居られ、今年四月に岡野君の母堂リュ姉が召天されたので記念会をするために小さな十人乗の飛行機で八月二日訪問したのが今は飛行機で僅か二十分で行かれる。

村上兄弟宅で大変御世話になる。墓参や記念会も同兄弟宅で行う。同兄弟がアルパタから此処に帰られて数年にしかならぬいが今では立派な家と、母畑を与えられ、見違える程に開けた此の文化的別荘地の他に競争のない専耕作でホクホクものである。親日家のキヤピテン・ベスト氏夫妻の招待をうけ楽しい一時を過す。数年間に子供達が見違えるように成育して居られて嬉しかった。美しい自然にまつまされて、神の恵の裡にある此の島の人々に幸あれと祈りつつ、再び飛行機で土曜日の夕方バンクーバーに帰る。

「聖餐式の意義」について語り、主の御聖体拝受の如何に必要であるかを共に学ぶ。集まる者約二十五名、此の日、かつて戦時中の大主教、アダムス博士の御逝去をきき、感謝と天父の御祝福を、日本人を愛して下さった同師の上に祈る。午後は北側に大きな造船所を経営して居られるダラトンの松本勇兄宅を訪れ西晩を廻つてライオンス橋を渡り夕はクライスト大聖堂の礼拝に出席、夏でも、之れだけの会衆がと驚く。信仰はやはり礼拝に出席して養われる。月曜の夕は超教派主催で、日本ホールにて講演会を催す。「我が体験」と題して苦難の中に神に救われし自分の過去の物語りを説く、多くの方が泣きつつ、御静聴下さる。村上兄が司会して下さつた。

数日滞在中に日本領事、田辺宗夫氏御夫妻に招かれ日本より名の留学生、河野君と中根君と三名で晩餐の御もてなしにあずかる。全く思いがけぬ親切に恐縮する。斯くして忙しい数日を過ぎバンクーバーに別れを告げて八月十四日帰途の旅につく。

十四、キヤムループスにて  
ツロエット、ウィリアムレーキ、七十哩ハウスの三方所はどうしても時間の都合で訪問が出来ず、申訳ないなと心で詫びつつ途中フレザー河上流のキャンヨンの美景に心うたれつつ夕刻キヤムループス駅に着く。渡部松太郎、田端、大石、安井兄弟に迎えられ、支那料理の歓迎会にて、更に田中、浜沖、栗須兄弟其の他も参加され到れり尽せりの御歓迎、ホテルに案内され一休み、恐縮至極。其の夜は、リベラルホールにて講演と映画会衆は堂に満ち、前記諸兄弟の他に、杉山、下山、立石、小林、高橋、沢田、楠本、貴家、森、橋本、山崎、中野、庄山、若林、黒見、其の他の兄弟が集つていただく。集会後は茶話会をして更に対談の時をつくつて下さる。実に楽しい楽しい一夜であつた。

翌日は日曜日で、先ず渡部兄と共に聖ポーロ大聖堂に早朝聖餐式に出席、司式された、キヤノン、ジェリーがエドモントン大会で私が日本移民問題で話したのを憶えて居られ、是非十一時の礼拝に出席して説教を放送せよとの事、突然の事で少しためらつたがやはり之も神の御意かと思ひ引受けて短い説教を日英語で放送する。思いがけない光栄ではあつた。午後は渡部兄の自動車でトランクサルのサナトリウムに八名の同胞の患者を慰問し、坂本哲夫君や庄山氏を始め十名ばかりの知友を訪問する。庄山氏は此処の開拓者で、私の訪問をととても喜んでくださる。

夜は、浜沖兄弟宅にて家庭集會、超教派で、合同教会の楠本兄が司会して下さり、来会者は三十数名、坂本君はわざわざ私の朝の放送を、テープにおさめてそれをもつて来て皆にきかせて下さる。茶菓をいただきつつ再び自分の声をきき、楽しい一時であつた。

キヤムループスは昨年逝去された、ミス・ラングが十数年間、困難の中に伝道され最近ようやく其の実が結び始めた処である。此の地に邦人司祭の与えられるよう祈るものである。渡部、浜沖両家の御招待にあずかり、夜は晩市時代よりの信徒、下山吉之助兄と息子さん達の宅で御世話になる。最近、日本から誠青年も迎えられて、種々楽しい語らいに夜半まで話し続ける。

十五、ケロナとラットランド  
翌日数名の信者に送られて、再びバスの人となり、午前十時過ぎケロナ市に着く、坂本広治兄御迎え下され、合同教会の梓山牧師御夫妻の招待をうけ昼餐の御馳走になり、午後の一時を山本かく姉と語り、夜はラットランドのビーブレス・ミッシュンで伝道集會をする。寺井忠男兄司会して下され梓山牧師の開会の祈禱につづいて私の体験談

をする。来会者は、横田、小出、坂本、寺居、玉置、入沢、池之上、寺井、寺田、山辺、星崎、山本、其の他の兄弟で楽しい集会であつた。其の夜は眞の兄弟のように親しい坂本エデー兄弟宅でお世話になる。

**十六、ウインフィールド**

翌日ケロナを出発して、次の村、ウインフィールドに着くと太地豊吉兄と、オカナガン・センターの小林伝兵衛老兄が迎えに来て居て下さる。何は兎もあれ、永い間病床にあられる、小林姉を御見舞したいと思つて御伺いする。同姉は大変御喜び下さつた。聖書を読み、聖歌を共に歌い御祈りをして一時を過す。「やさしい先生だねー」としきりに言つて居られる。此の姉妹を慰めただけでも、此の旅の意義はあつたと思つた。太地兄の御好意で此の地方の同胞を殆んど皆御訪ねし、其の夜は太地兄宅で集会をする。実に楽しい家庭集会であつた。其の夜は太地兄宅で御世話になつた。

**十七、バーノンにて**

御親切な太地兄姉は、私をバスで送るよりも、立派な自動車で一仕事をして休んでバーノン市まで送つて下さつた。有難い事だ。バーノンのバス駅には已に、志賀姉や三輪兄が迎えに来て居て下さる。

丁度三輪兄姉は休暇中で、何くれとなく御世話下さり、バスケーパー時代からの特別に親しい志賀姉宅で御宿をして下さる。盛大なソーミルをやつて居られる矢倉幸利兄宅を訪れ、今は立派に成人された二人の息子さん達にも面接、其の夜は婦人会長小笠原姉の御尽力で農会ホールで集会、農繁期にも拘らず二十五名程集つていただく。ミス・ラングの追悼記念会と共に行う。

**十八、サモンアーム**

昨日太地兄姉が御奉仕下さつたように、今日は三輪兄姉が一日を休んで私をサモンアームまで送つて下さる事になつた。美しいBCの山河を立派なハイウェイがぬうように通つて居て其処をドライブしてもらつて、やがてサモンアームに着く、先ず、中村、小川兄姉宅を訪れ、其の夜は同地聖公会ホールで集会する。同地の長老、種村兄が司会して下さり、全村の皆様が集つて下さり、遠くタッペンから、川瀬兄姉も来会さる。此の集会のためには岡田義夫兄が大変努力して下さり、中川、氏本、齊藤、小川、種村兄姉其の他の方々が私の歓迎会をして下さつて、快談、夜半に到るも尽きぬ。其の夜は氏本勇兄宅で御世話になる。珍らしく日本風呂に入れ

ていただき、息子さんが苦心して釣られたツラウトの御馳走になり、旅のつかれを全くいやさる。

**十九、セリスタとマグナベイ**

私の旅行した処では瀬戸内海加州モントレー半島、米国首府ワシントン、ハワイ、沖繩等美しい処が沢山あるが、シェニスワップ湖も全く、その美しい場所の一つである。其の一角、セリスタに親友、今井三男兄姉と御子息正照兄が最近結婚されて可愛い御孫さんが与えられ、楽しく生活して居られる。最近此の今井兄の隣接湖畔が州立の自然公園になつて、キャンプサイトになりつつあるので、美しく出来たハイウェイによつて、夏の来客者も多かる可く、同兄姉らは張切つておられる。此処から五六哩の処にマグナベイがあつて、浦野、藪本、木下、宮崎、名畑、中沢、齊藤兄姉らが、葎農業をやつて居られる。私は何時でも此処に来ると、全村の日系人が集つて歓迎して下さるのだが、今回も、ホールの庭でピクニックをし、大変な御馳走になり、引続き、ホールで講演と映画、数名の白人中には聖公会牧師、スレーター司祭も居られた。楽しい一夜を今井兄姉の裏の崖の上に登つて美しい湖水を眺めつつ、祈禱の一時を与えられ、午後出発、再びサン

モンアームに帰る。途中、ナツチヒルの藤川兄姉や高木兄姉を訪ね得なかつたのは残念であつた。

**二十、レベルストーク**

ロッキート山の麓、コロンピヤ大河にそつて鉄道を中心地、レベルストークには約百名程の日系人が居られる。此処に、九月十八日の夜十一時頃、バスで着いた。知友の坂本請太郎兄がサモンカームから同道して下さり、同夜は同兄姉宅で御世話になる。実に親切な方々である。次の日御子息健二君に案内されて、同地の同胞多数を訪問し、午後同家で集会をする。萩野、島崎、橋本、高橋、田中、脇田、其の他の兄弟が集つて下さり、楽しい集会であつた。ただ一つ残念なことは元気のいい土屋一兄が急に病氣になられ、出席出来なかつた事である。私は其の朝御訪問して共に語り、祈つたのだが、翌日私が出発した後で神に召されて逝去された。人の運命は誠に計り知れぬものである。坂本兄姉宅で再び日曜の夜を過ぎていただき、翌日早朝、ゴールデンに向け出発した。

**二十一、ゴールデン**

以前はドーナルドに居られた同胞が、ソーミルの火事のためゴールデンに引越された事が判つたので、二百哩のビグベンド

ハイウェイをバスで、美しいロッキート山脈の入口ゴールデンに着いたのは午後の二時であつた。親切な土屋姉が迎えに来て下さり、同姉宅で御世話になる。此処には、土屋竹次御兄姉と御子息のジョーシ君夫婦に御孫さん。藤本義男兄姉と御子さん方だけである。それでも互いに語り、集会し、大変喜んで下さつた。此処が今回の伝道旅行の最後の場であり、無事に一ヶ月のプロگرامがすんだ時、私は、心からなる感謝を神に献げた。

**二十二、帰途の旅**

いよいよ一ヶ月の伝道の旅を終えて帰途についた。凡てが感謝である。いつもは大抵汽車の旅をするのであるが、今回はバスケーパーからゴールデンまでの切符を買つたので、バスの旅行である。ロッキート山は何時見ても美しい。確かに世界の山の王様と言えよう。同じロッキート山脈でも、カナデアン・ロッキートは実に美しい。途中、レイキリスやパンフで下車し、三十分位づつ休めたので、バスの旅もいいなと感じた。

キヤルガリーで乗替えて八月二十日の夕刻無事、帰宅した。凡てが感謝、一日も休む事なく御用をつとめさせていただいた神の御恵みに感謝で胸は一杯である。

二十三、旅を了えて

省みれば、今年の休暇も、忙し  
しい休暇ではあつた。幾年ぶり  
かに会う友の真情、到る処で受  
けた大歓迎と御援助、全く感謝  
を表わす言葉もない。数年間会  
わぬ間に、御事業も盛んにな  
り、御子さん方も成人されて居  
り、共に感謝の祈りを献げた事  
も幾度であつたらうか。それに  
反して病床にある友もあれば、  
己に故人となられた親しき友の  
墓前に花を手向けて祈つた其の  
一時、泣く者と共に泣き喜ぶ者  
と共に喜んで過し得た一ヶ月を  
私は、感謝をもつて楽しい思い  
出とするであらう。

ではBC州各地の皆様御気嫌  
よう。いろいろ有難う御座いま  
した。

過去一年を省みて

思い出深い一九五七年もいよ  
いよ永遠の過去に帰らんとして  
居ります。此の年の出来事は個  
人的にも世界的にも、決して小  
さいものではありません。其の  
中でも、ロシアが、ロケットや  
スターライト・ミセルを他国に  
先だつて発した事は、世界を驚  
かせました。欧州では、ハンガ  
リヤの反共革命と其の弾圧、エ  
ジプトとユダヤ、又はアラビヤ  
とシリアの問題、米國と英國、

又ロシアが競つて原爆を試発し  
た事、米國の人種問題で黒白人  
の問題、カナダでは二十二年の  
自由党が保守党に負けて、デー  
ブエンペーカー内閣が生れ、日  
本では岸内閣となり、日本の国  
際連盟への加入等、この年は、  
人類歴史の上にも忘れ難い年で  
あります。

併して私共は小さいながら、  
教会としても個人としても色々  
の思い出をもつて此の年を送ら  
んとして居ります。先ず教会の  
事を言いますと信者の中には大  
差なく、少年は青年に、青年  
は大人にと成長し、大学に入學  
する人、或いは結婚する人達、  
世の常ならぬはありませんでし  
た。変化の少い斯うした田舎の  
教会でも、礼拝堂は新しい床を  
張替え、美しくなりました。教  
区への割当金も、全額を超過し  
明年は更に牧師給の支払負担を  
今年の倍にするよう、日白人は  
決心して居ります。

私共個人にとりましても今年  
は実に思い出深い年でありまし  
た。それは一人しかない息子の  
テモテ・真が、二月二十五日の  
聖マソテヤの日に司祭の按手礼  
を受けさせていただいた事で  
す。彼はキヤルガリー市の大き  
な聖公会、聖バルナバ教会の副  
牧師として又、同市内聖公会青  
年会連盟のチャブレンとして、  
教区宗教教育局委員として、児

童説教放送主任として毎日囉  
れ才放送をし、大多忙の中に健  
康を支えられ、楽しく御用をつ  
とめて居ります。

一人の娘、ジョーイ・のぞみ  
は良縁あつて小川デビッド君と  
春結婚し、バンクーバーで楽し  
く生活しています。私の責任を  
もつて呼寄せた内藤恵君も三年  
の後は日本を訪れ、新妻を迎  
えて帰りました。四十年前の中  
学時代の恩師、京都西洋学園長  
中根正親先生の末子、朝雄君を  
今年に責任をもつて呼寄せBC  
大学に通わせて幾分か旧恩に報  
ゆる事が出来ました。

黙々として、静かに私を助け  
て、己に結婚生活三十一年にな  
ります家内が共に伝道の御用に  
あたつた十名の日白人伝道師の  
御好意により、聖公会カルガリ  
ー教区婦人補助会終身会員とし  
て表彰され、同全国大会の席上、  
金メダルをいただきました。斯  
る多くの御恵みをいただきました  
ことは、私ども一家にとりま  
しては表わしようのない感謝で  
す。

然し一面静かに反省して見ま  
すのに、私共には何の飛躍もな  
く信仰上の発展を見得ませんで  
したのは、自分の力の足らざる  
と努力の足らざりし事と、神と  
人との前に懺悔に耐えぬもので  
あります。

私は思いますのに、信仰生活  
に於て最大の問題は、ハツキリ  
とした教の確証と全身全霊、全  
生命の献身だと思ひます。

数回開かれた今年の教区での  
会議で何時も感じました事は、  
信徒の礼拝不参加問題、教会内  
の諸機関指導者不足問題、教会  
経済の不充実問題、其の他実際  
問題が結局、不徹底な教の確証  
に欠けて居る処から出発してい  
ると思ひます。

若しも、我々一人一人が、罪  
と死より救われるために、主が  
如何に大きな犠牲を払い給うた  
か。十字架上の主の御苦しみを  
思い、其の御恵みによつて救わ  
れた事が判りましたならば、人  
々は自発的に、礼拝に出席し、  
教会に奉仕し、喜んで献金し隣  
人を導いて教会につれて来る筈  
であります。それが出来ないと言  
う事はまだまだ救われた真の  
喜びを味わっていないためだと  
思ひます。

私は、自分の力の足らざるを、  
教会を盛んならしめ得ざる責任  
を痛感し、神の前に、人の前に  
泣きつつ御救しを乞うて居る次  
第です。私は年の暮に今一度主  
の十字架を見上げて、新しい出  
発をしたいと祈つて居ます。何  
卒此の力のない信仰の弱い田舎  
牧師を励まし、祈つて下さい。  
私も皆様のために祈ります。

(中山)

聖愛便り

皆様の御援助によりまして、  
聖愛も活版刷にして数回出す事  
が出来心から感謝致します。只  
申訳けない事はカナダで原稿を  
書いて、日本に送り、それが整  
理されて出版されるまでには思  
いがけない多くの日数を要し定  
期に発送が出来ない事です。斯  
る小さなものでも愛読して下さ  
る方、待つて居て下さる方が多  
くある事を思いますと心だけは  
いらいらするのですが日本とカ  
ナダの事ですから、ときにはど  
うにもなりません。何とぞ御了  
解くださいまして御救しくださ  
い。

聖愛の他に出版部では信仰書  
を出版し、己に「美しい信仰物  
語」神の声をきく時「異端につ  
いての警告」「霊の糧」を出版、  
近くは「聖なる愛」を出版、クリ  
スマス迄には皆様の許に御送り  
したいと願つて居ります。私共は  
凡て信仰をやつて居るのであり  
まして右の出版のため己に二千  
弗以上費しました。でも皆様が  
喜んで御援助下さいますので、  
何の心配もなく今日に到りまし  
た。私共の祈りと願ひは小さい  
ながら此等の出版を通して一人  
でもが神の福音に接し、御救い  
にあずかれん事です。では皆  
さま、御身御大切に。新年と共  
に益々御発展を祈ります。

# 聖愛

第67号

発行所

Rev. G.G. NAKAYAMA  
P. O. Box 461  
COALDALE,  
ALBERTA,  
CANADA  
カナダ日系人聖公会

## 光の宗教

中山吾一

「神光あれと言ひ給へば光ありき。神光を善しと観たまへり。神光と暗とを分ちたまへり」

(創世記一ノ三、四)

我らの主イエス・キリストは、全世界、全人類の救主として、暗い世界を照す真の光として世に來り給うたと言ふ事は何たる有難い事でありましようか。私共は此の真の光、キリストの光について学びたく思います。

### 一、光と暗との世界

聖書の最初、創世記の始めに神光あれと言ひ給へば光があつたと記されて居ります。即ち始めは地は形なく、暗黒であつたが、神は光を此の暗い世に來りせて明るくして下さいました。何故でありましようか。

ヨハネ一書、一章の五節に「神は光にして少しの暗きところなし」とあります。これは実に天なき真理を宣言したものであります。同じ光と言ふ言葉を

世界大戦が起らないとも限らないと云うのが今日の情勢であります。全く暗い世界です。更に互自身自身の生活を反省熟考して見ますと、全く自分の生活が明るくない、暗い方面のある事に気がつきませう。斯る時に必要なものは何でありましようか。それは此の暗い心、暗い時代を明るくする力、その源なる真の光を來らせる事でありませう。

### 二、真の光なるキリスト

「もろ／＼の人をてらす真の光ありて世に來り」(ヨハネ一ノ九) この真の光とはキリストの事でありませう。ヨハネ一章には此の光は生命であつて、神御自身が真の光として肉體をとつて此の世に來り給うたと言つて居ります。

「我は世の光なり、我に従ふものは暗き中を歩まず、生命の光をうべし」(ヨハネ八の十二)

キリストは大膽に我は世の光と言われました。人誰かキリストの如くに宣言し得る者がありましようか。然しキリストが神であり真の光である事を誰が証明しましようか。

- (1) 第一に福音記者がそれを証明します。
- (2) 次に凡ての彼の弟子がそれを証明します。
- (3) そうして二千年の歴史がそれを証明します。

暗黒時代と言われた人類の暗い生活は、最も、キリストの真の教えが力を失つた時でありました。人々が神を忘れ、教会の礼拝を怠つて居りますならば、それは暗黒な生活であります。今日までの、多くの美術、音楽、建築、凡ての芸術が、主の光をうけて居る人々によつて、輝やいて來ました。それはキリストが世の光であるからであります。

### 三、光を受けし者

キリストを信じますならば世の人の受ける事の出来ない光をうけます。その光は内部的なものでありまして、心の中の光であります。心の中に光が來ますと第一に感じます事は何とも言えぬ嬉しい事です。丁度眺の空に光を見るようであります。心の中が明るくなりませうから何でも明るく見えます。

次に、その光が外に出て來ます。丁度、家の中に光がありませうと外にそれが出て來るようなものであります。外部に光が出て來ないならば、それは内に光が無いからであります。

主は「汝の光を輝かせ」と言われました。その光とは何でありましようか。それは善き行為であります。善き行為は心の中に光があつて初めて出来るのであります。その光は、人の光で

は駄目です。神の光でなければなりません。モーセがシナイ山上で神と語り、山から下りて來た後、人々は彼の顔から輝き出づる光を見ました。キリストの山上の御變貌はまた驚くべき輝きの光でありました。弟子達は、其の光を見たのです。

### 祝主御復活

いよ／＼今年も主の御復活の記念の日が來ました。新しい生命の躍動する春、自然が甦つて來る春、イースターは何と楽しい時でありましよう。

私共の靈魂も亦、自然と共に目をさまし活躍を始めねばなりません。伸上らねばなりません。地上の一次的な煩雜な事からしばし解放せられて、永遠の輝く彼方に眼を向けなければなりません。

御栄光の主は復活なさいました。神の生命は、暗い罪と死を征服して、永遠の生命として復活なさいました。正義は遂に勝ちました。イースターは勝利を告げています。

ハレルヤ



### 死刑囚の父

(前承)私をカナダの御父さんと呼んでくられて居た。死刑囚の△△登君から、其の後も放通の手紙が届きました。そして其の度私は返事を出して、彼を精神的に慰め、キリストと其の十字架について導くべき努力しました。然し、精神的に更生した彼ではありますが、犯した罪のため、遂に二十五才の地上の生命を、死刑と言う、悲しい運命によつて終らなければなりません。

彼の死について、同囚の親しくして居た▲▲久雄と言う方から、左のように知らせて来ました。

突然に御便り差上げます事を御許下さい。  
先生の愛する息子△△登君が御召を受けて御園に凱旋して行きました。何から御知らせしてよいか、胸が一杯で思うようにペンが走りません。私と登君は死刑を言い渡されて後やがて召されると思い、受洗を決定し二十八年八月二十日共に受洗しました。隣同志で運動も一緒、週一回の入浴も二人仲よくはいつて励まし合つて来ました。やがて私が召されるであろう。その時には後を頼むよと約束したので

す。昨日運動時間が来ても、運動がないので、今日は——と思ひ私は聖書をよみ讃美歌を歌い、御祈をして居ました。私の父には来ず、隣の登君の父に教育部長が来られ、今日通知が来たからと知らされ、部長さんと共に讃美歌三六一番を歌い、後の事を部長さんに頼み皆さんに別れの挨拶をして刑場へと行きました。

平常と何ら変わる事なく、先輩(私のニックネーム)御先に召されるなんて本当に私は幸福です。いと喜んで固く握手をして別れました。その時後の事は部長さんに頼んである。よろしく頼むよカナダや沖繩の方々によろしく言つておいて下さいと云いました。前から話し合つていました、勿論私が先に召されると思つて居ましたので後の事を頼むと言つて先生の事も聞いて居り、御便りも見せて頂いて居りました。だから頼むの一言で何もかも含まれて居るのです。そのためにこうして御便りして居るのです。

又先生の送つて下さつた「日本が救われるために」神の声を聞く時」等皆読ませていただきました。刑場の方では、ピ・シー・ムーア牧師が立合され一時間共に聖書を学び、祈

つて立派な最後を遂げられました。行く登君よりも残れる私達が胸一杯になり、熱いものが流れ、声が出ず、とり乱してしまいました。登君のお父さん、登君は立派に主イエスキリストに救われ確信して勝利の凱旋をなさいました。お父さんが日本に帰つて来られる迄、生きて居たいと言つていましたが、彼は此の地上で先生に会えなかつたのが残念でしょう。然しやがて永遠の生命を得て御園で再会出来る事を確信して居ると思ひます。何卒登君のため御祈りして下さい。(後略)

中山吾一先生

× × × × ×

▲▲久雄

右の文面で彼が如何なる死を遂げたか読者皆様に御判りの事と思ひます。何とかして助かる道はないかと心を痛めていましたが不幸にしてそれは許されませんでした。然し同じ死刑に会つても彼がキリストによつて靈魂が救われて召されて行つた事は私にとつて大きな慰めと希望を与えます。

では、長々と綴つて来ました「死刑囚の父」はこれをもつて終りと致します。何処からともなく「汝、今日我と共にパラダイスに在るべし」との聖言が聞えて来ます。

### 反響

拝啓、昨年の夏は折角の御休みを献げて伝道旅行をされ、当地にも御立寄下され有益な福音を御聴かせ下さいまして有難うございました。其の後御著「靈の糧」や聖愛誌を御送り下さいまして有難く拝読致して居りました。普通の小説や単行本と違い一句一句味つて読んで居ります。同じ本を読むにしても其の著者に一目でも会つて居りますと尚一層の親しみが加わるものでございます。読むだけに、之を著述せられますには容易ならぬ努力が要された事を思ひ、先生の伝道に対する御熱意の程に心から敬服させられました。又文章の全般に亘り先生の霊と神様との交りが非常に深く高いものである事が証しせられて居りまして読む私共に取りまして誠に良い道案内でございます。

先生のBC伝道旅行記の中に先生がサンマールランドに苦学時代の御働きになり、多田様と親交の間柄であられます由、実は私も時は違いますが多田様の近くで子供の時三カ年父母と共に過ごしたもので御座います。そして近所の白人の子供の友達に誘われてサンデースクールに行つたのが聖ステブンスと言う聖公会でありました。そして一九二一

年十七年の時、アーチデーコン・ソレイ師より洗礼をうけ、ミセス・ソレイが教母になつて下さいました。それはイースターの日で盛大な式でありました。ですから、私は今は他の教会に行つて居るにしても自分とキリストのつながりを造つていたのだいたいは聖公会であり、家内をサンマールランドから迎えて居る関係で、あの石造りの教会の前を通る時には、ここぞ自分の霊のふるさとと非常になつかしく思うのであります。そうして今回は同じ聖公会の先生にお目にかかつて本当に嬉しく思ひ神に感謝した次第であります。(後略)

中山吾一先生

ラットランド 寺井忠雄

拝啓近く主の御復活祭を迎えんとして居ります時、天から宝の降り来し如き御良書御めぐみ下さいまして、まことに有難くあつく御礼申し上げます。(後略) トロント 玉置ナヲ 中山先生

右の外、幾百通かの御手紙を受取り感謝して居ります。限られた紙面で発表出来ないのが残念ですが、文書伝道の必要と、皆様が如何に喜ばれるかを知つて益々励まされて居ります。尚引続き御通信下さい。

寄書

サクラメント 野口生

クリスチャンの崇める神は全人類の父なる神であり、其の最愛なる御子イエスと偕に世の始より在りて、天地に満つる万物を無より有になし給える創造神であります。

此の神が万物を創造なし給いたればこそ、私共は、科学、哲学、真理、仏、如来、聖書など、言えるようになったのであります。若し此の眞の神がなかつたなら、科学、哲学、聖者、仏如来もなく、又我々もないのであります。それ故に此の眞の神に勝る神々も仏もないのであります。

此の神の御教を証したバイブルが米国やカナダの国是のバックボーンであります。それ故、クリスチャンは最もよく国是を理解し、地上にありては良き市民として正直、忠誠な生活をし且つ此の世の最後の幕が下りたならば、愛なる天の神の御許にて、最大の平安と幸福を与えられるの特権をもつて居ります。然し故意に信仰を無視し、神意に逆い不信仰の人は死後は地獄に苦まねばならぬとは聖書の教える処であります。

或る人は、万教一だから何もキリスト教一色に世界を塗り潰す必要はないと言いますが、

若しそれが眞理ならば、キリストの十字架の犠牲も、聖書の教も偽りとなり、神の存在も疑わしくなつて来るのであります。主は何故十字架上で肉を割き、血を流し給うたかと申しますと全人類を罪より救わんためです。これを信じない者は亡ぶのであります。

戦後の日本にとつて大切な事は米国始め外国と親交する事であり、もし対外貿易が止まれば日本は窒息するであろうと或る駐米大使は言つて居られます。門外の私共でも貿易に故障を生じたならば母国民の苦境に陥る事は周知のことです。

此の英米其の他諸外国と親善を向上させる道は多くありましようが、民主主義への忠誠なるクリスチャンになつて、互に理解し尊敬し相愛することこそ、最良の方法と存じます。在米加の同胞は勿論、日本国民も全体的に此処に目覚めて、自分と民族の救のために、眞理なるキリストを信じなければなりません。

クリスチャンになる事は眞理に従う事でありまして此の地上に於ては愛の生活をしますので家庭、社会の生活は、親和協力となり、自分の生活は節制謹厳、愛他の楽しい人生を過し、後の世に於ては限りなき永遠の生命を得る平安を与えられます。是非此の信仰を得て下さい。

感謝録

最近左の方々から出版部のため御献金をいただきました。謹んで感謝致します(敬称略)

- 上塘ヒデ、山崎武雄(ミッドウエー) 藤井忠一(ドーナルド)
- 小林順(ニューテンバー) 杉浦三平(エドモントン) 水野新太郎(ウイニベック) 黒田孫エ門 齊藤スイ、杉本(ニューテンパー)
- 古屋儀作(サンマールランド)
- 小林広太郎、ミセス藤田、M・渋谷、K・木下、S・高津、R清水、K・森、増田初太郎、久永美代子、H・藤井、広瀬徳次(以上ウイニベック) 矢メ下貞雄、藤田又右工門、中元末一(オンテリオ) 井上滋次郎、市川石之助、森政蔵、林ゆき、山田敬蔵、佐近文次郎、岩浅亨、溝淵清、角増新次郎、黒田常次郎 中筋ウマ、寺井忠雄、高田義孝 玉置ナヲ、薄川、今吉吉之丞、本常運一郎、広瀬孫太郎(桑港) 杏掛義男、無名姉、桜田エイ、西本・ミセス・Y(聖トーマス)
- 安藤春子、兵藤英一、外海清一郎、岩田高満、林とし子、田中久夫、福田一雄、中釜長三郎、阿久根直之丞、下沢幸平、松原慶太郎、藤本モミ、竹中君江、森田治助、川口スエノ、松下一郎、杉山常吉、大井藤吉、小林貞一、引地重久、吉田忠次郎、杉浦つね、小林伝兵衛、高橋政

- 次郎、南出トシエ、門永ソメ、村上梅夫、Y・磯貝、桑原セツ
- 宮崎治郎兵衛、山岡清太郎、小早川明子、坂本哲磨、藤川末吉 杉本勝(シャトル) 坂本万蔵、増田初太郎、工藤種明、北川源蔵、梅津キウ、花田金季、桑原正笑、坂本忠義、坂本英夫、官沢八郎、甲山四郎、藤井弥十、園田貞雄、氏本勇、花月鶴太郎 西田辰蔵、外村孝太郎、森田スミ、安井雪野、石井テル、西村正元牧師(ロスアンズルス) 野口俊次(米国) 佐藤信次、国分壬五郎牧師(パサテナ) S・佐賀、梶浦万亀治、田上繁夫、日夏庄太郎、上出邦蔵、佐野又三郎、永見金作、森本誠一郎、村田嘉之、鎌田富蔵、足立勝榮、(以上聖カサリン)
- ◎尚クリスマス献金を左の方々からいただきました。有難うございます。(敬称略)
- 山崎文吉、鳴瀬全太郎、志賀辻尾、小林伝兵衛、山本キン、ミセス橋本、竹中仁一郎、渡辺順一、甲山四郎、富山正機、狩野トミ、ミセス・G・下浦(米国) 村上政義(ムリスジョー) 日高クメ、下程元衛、ミセス堀内、森ナンシー、勝野千秋、仲留五郎、水谷義一郎、山辺スズ、高田義孝、酒井七助、森新名、村上梅夫、坂本万蔵、金田トメ(米国) 長谷川長太郎、木下善一、松本勝(米国) 阿部文男、

野口俊次、牧野政野、川島エキ、勝田芳夫、森田スミ、松井静枝、浜伸伊八、遠山本三、鬼崎富士太郎、堀川長太郎、中釜龍太郎、中島勝一、栗須オクノ、宮永Y、佐野繁市、豊田勲、高島義親、H・K木井直(米国) 花田金季、木村岸三、坂田徳一(米国) 五百井仙之助、山本カク、吉原元一郎、親川徳助、津宅五十松(米国) 水野裏治、津村久米次郎、高木章、若林トム、小橋川共盛、山岡清太郎、牧志安能、矢野盛、高橋久吉、高橋隆雄、高橋重雄、西田辰蔵、重松朴、上塘健次、上塘ヒデ、上塘愛子、上塘溢夫、岡琢磨、岡宗三郎、岡ジョームス、鯛瀬八郎、鯛瀬歌子、森平春二、森平京子、見門益夫、坂本エデー、坂本孝太郎(米国) 稲葉正信、見門ボップ、白石吉太郎、内田貢、宮内芳衛、杉山勝二、中村スミ、岩淵喜代助、山下辰蔵、金川作次、南出峰一、見門春市(其の他)

◎右多数の事で記載もれがあるかも知れません。御気づきの方は知らせて下さい。

◎教会維持のため週極、月極又は年極の献金をして下さつた方特別献金、感謝献金等して下さいました方に厚く御礼を申し上げます。尚今後とも、私共を御祈りの中におぼえて下さいませ。

### 日本よりの便り

御恩籠のもと、益々御多祥御祝い申上げます。聖愛によりまして昨夏一カ月の永い間各地の日系市民のため御活躍なされた模様、誠に眼前に彷彿たるものがあります。広い大陸の味わい、私も二十七年間満洲居住の経験がありますので、この狭い日本内地東へ行つても西へ行つても海ばかり、道路のせまい所へ大型バスばかり出来て、日本はいまに、自動車で一杯になりほしくないかと思われまます。

パンフレットは「霊の糧」御患下さいました大変ありがとう御座います。十九才で入信した小生も五十九才、正しく信仰に在る者は世の苦しみに遇うと言ふ意味の聖句がありますが、私はよく先輩や同僚に「君は正義感が強すぎる」「正直すぎる」といわれます。正義や正直に程度が必要でしょうか。私は何も私が正しく信仰にあるとは思いませんが、今日の日本の社会も、又教会も含めて考えて考え、余く何をして居るのだからと思ひます。吾々の事業に関連性のある共同募金、赤い羽根運動があります。この共同募金は吾々の施設や事業に分配される金額より、募集費、事務費と云う名

目で費われる方がはるかに多いのであります。(中略) 一片の奉仕精神もない此らの人々によつて運用される共同募金も社会福祉事業も、どんなものであるか大凡御想像下さい。昨年カナダ聖公会から贈られたトラクター、一カ年活用しました。私の所だけでなく開拓の貧困者のために活動させたいと準備をして居ります。

先年私の所から卒業した青年が今此のトラクターを修理して居ります。彼は十九才、出来たらブラジルへ渡航したいと言つて居ます。私もそう念願して居ます。是非一人でも海外へ送りたいと希つて居ります。どうぞ御記憶下さいまして御祈り頂ければ幸であります。

小さい私の仕事をカナダの皆様からこの様に御援助下さいましてほんとうに感謝の外御座居ません。また御目にかかつた事はありませぬが、林寿枝姉、岡田嘉代姉に、どうか私の喜と感謝を御伝え下さい。何れ一度は御目にかかつて御礼申し上げる機会もあると私は信じて居ります。北海道はまだ雪です。然し今年は、雪だけが昨年より早いようので札幌の町はさながら泥川の中を自動車が行く様です。雪どけの泥川で、道ではありませぬ。その中を自動車は平気で走ります。徒歩者は居る場処があ

りません。自動車は歩く人のことなど一人も考へてくれませぬ。これが札幌の春の名物、これから五十日位はこの泥水をかけられなくては歩かれない春への途中です。では神の御祝福豊かならん事を祈りつつ、御厚意に感謝致します。

三月五日  
養護施設福寿園孤児院  
園長 ペテロ米沢錦一

#### 拝啓

先生には御健勝御喜び申上げます。さて先日とは当社の児童のため真に可愛らしい人形を使節として御患送下さいまして、本當に有難う御座います。かつて訪日された節小生、奈良聖公会にて先生の御説教を御聞き、司会させて頂く光栄を受けた事感激を新に覚えます。其の後失礼致しました。只今当社副牧師として御奉仕しています。先生はかつて当社にも御訪ね下さいました由承り、私達も先生のため、又御教会のため祈らせていただきます。何卒当社の児童のためにも御祈り下さい。

御患送下さいました人形は永く永く記念し児童よりの愛玩の対象となる事でございます。益々御健康にて、御聖務におはげみ下さるよう御祈り申上げま

す。  
一月二十三日  
大阪博愛社聖職主教会  
司祭 松田輝三雄  
司祭 中山吾一先生

先生始め教会の皆様御元気でいらつしやいますか。先日は可愛らしいお人形御送り下さいまして有難うございました。みんなとても喜んで居ります。そして沢山洋服を作つて着せかえたりして張切つています。そして皆様の御親切な心のこもつた御人形きつと、大切に可愛がつてやります。お人形はあまり遠い国へ来たので驚いた事でしょうね。でもみんなとすぐ仲よくなりましたよ。だから御安心下さい。先生の御写真も見せていただきました。どうぞ御身体を御大切に、皆様によろしく御伝え下さい。本當にどうも有難うございました。

博愛九生徒代表

### ◎ 聖愛便り

遠方近方の親愛なる兄弟姉妹 案外暖い冬を過しまして希望に輝く春を迎えようと致して居ります。心ならずも意外の御無音に打過し失礼致して居りますが皆様御変わりありませんか。何時も心にはかかつて居るのですが何やかやと教務に追われ勝ちで

思うように通信が出来ないのです。御承知のように私の仕事はパリッシュ教会と日系人ミッシェンの合併したもので、従つて仕事も二重に多く、それは今年白人教会にも日本について研究致して居りまして、講演や説教に引張り出され、余分に忙しいのです。でも幸に健康を支えられ感謝して御用にあたつて居ります。

多くの愛する皆様の事を想い出しては祈つています。殊に御病氣の方、家庭の事や其の他で悩み苦しんで居る方、事業不振とか失業とか経済的な苦しみのある方等の事を想つて神様の御情けと御慰めを祈つて居ります。主イエス様は「汝世にありては患難あり、されど雄々しかれ、我すでに世に勝てり」と言われましました。又「終りまで耐へ忍ぶものは救はるべし」とも言われて居ります。お互に凡ての苦難に耐え忍んでゆきましよう。人生は只、なやみ苦しみのみでなく、楽しい時もあれば嬉しい事もあります。主は十字架の犠牲の死の後に復活なさいました。復活を信じましよう。そして永遠の生命を望みましよう。どうぞ、主によりて更に深い交りを願つて居ります。御忙しいでしようけれども御手紙下さいませ。神様の豊かな御祝福皆様の上にありますよう祈ります。